

平成19年度

# 市原市内遺跡発掘調査報告

稲荷台遺跡 M 地点  
郡本遺跡群(第7次)  
南岩崎仲山遺跡(第3次)  
小鳥向遺跡(第4地点)  
山木遺跡群(出戸地区)

2008

市原市教育委員会

平成19年度

# 市原市内遺跡発掘調査報告

いな り だい  
稲 荷 台 遺 跡 M 地 点

こおり もと  
郡 本 遺 跡 群 (第 7 次)

みなみ いわ さき なか やま  
南 岩 崎 仲 山 遺 跡 (第 3 次)

こ とり むかい  
小 鳥 向 遺 跡 (第 4 地 点)

やま き で ど  
山 木 遺 跡 群 (出 戸 地 区)

2 0 0 8

市 原 市 教 育 委 員 会

## 序 文

市原市は、南北に貫流する養老川がもたらした肥沃な平野と、山間部の緑豊かな自然環境をもち、市内各地には先史以来の多くの遺跡が存在し、人びとの足跡を今日に伝えていきます。

本報告書は、平成19年度に国及び県の補助を受けて実施した、個人住宅の建設など、市内に所在する5遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。本書を学術資料としてはもとより、埋蔵文化財の保護とその重要性を知るための資料として、広く市民の皆様に活用していただければ幸いです。

最後に、発掘調査の実施から報告書の刊行にいたるまで、ご指導、ご協力いただきました文化庁、千葉県教育庁文化財課をはじめとする関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成20年3月

市原市教育委員会  
教育長 山崎正夫

# 例 言

- 1 本書は、国庫および県費の補助を受けて、市原市教育委員会が主体となり実施した、市原市内に所在する遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査および整理作業、報告書刊行は市原市教育委員会ふるさと文化課埋蔵文化財調査センターがおこなった。
- 3 本報告書所収の調査は以下の通りであり、所在地、調査原因等は巻末の報告書抄録に記載した。

山田橋稻荷台遺跡M地点(調査コード セ - 419) 対象面積360.24m<sup>2</sup> 確認調査36m<sup>2</sup>  
調査期間 平成19年6月4日～平成19年6月6日 担当 小川浩一

郡本遺跡群(第7次)(調査コード セ - 420) 対象面積568.95m<sup>2</sup> 確認調査56m<sup>2</sup>  
調査期間 平成19年6月11日～平成19年6月15日 担当 小川浩一

南岩崎仲山遺跡(第3次)(調査コード セ - 421) 対象面積1,479.2m<sup>2</sup> 確認調査147m<sup>2</sup>  
調査期間 平成19年6月25日～平成19年7月10日 担当 小川浩一

小鳥向遺跡(第4地点)(調査コード セ - 424) 対象面積420.68m<sup>2</sup> 確認調査42m<sup>2</sup>  
調査期間 平成19年8月20日～平成19年8月27日 担当 小川浩一

山木遺跡群(出戸地区)(調査コード セ - 428) 対象面積514m<sup>2</sup> 確認調査51m<sup>2</sup>  
調査期間 平成19年11月12日～平成19年11月16日 担当 小川浩一
- 4 整理作業及び編集は、小川が行った。
- 5 各遺跡の調査に際しては、基準点測量を実施していない。図中に示す座標値及び北は遺跡近隣の既知点をもとに図上で求めたものであり、厳密ではない。なお、座標値は旧系を使用している。

## 本文目次

1 調査遺跡の位置と概要……………	1	4 南岩崎仲山遺跡(第3次)……………	12
2 稻荷台遺跡M地点……………	3	5 小鳥向遺跡(第4地点)……………	17
3 郡本遺跡群(第7次)……………	6	6 山木遺跡群(出戸地区)……………	19

## 挿図目次

第1図 調査遺跡位置図……………	2	第12図 全体図・遺構図・出土遺物……………	14
第2図 稻荷台遺跡位置図……………	4	第13図 遺構図・出土遺物……………	15
第3図 全体図・遺構図・出土遺物……………	5	第14図 小鳥向遺跡(第4地点)位置図……………	17
第4図 郡本遺跡群(第7次)位置図……………	6	第15図 全体図・遺構図・出土遺物……………	18
第5図 全体図・遺構図・出土遺物……………	7	第16図 山木遺跡群(出戸地区)位置図……………	19
第6図 遺構図・出土遺物……………	8	第17図 全体図・遺構図・出土遺物……………	20
第7図 遺構図・出土遺物……………	9		
第8図 遺構図・出土遺物……………	10		
第9図 出土遺物……………	11		
第10図 南岩崎仲山遺跡(第3次)位置図……………	12		
第11図 報恩寺3号墳と調査範囲……………	13		

## 写真図版目次

図版1：山田橋稻荷台遺跡M地点・郡本遺跡群(第7次)
図版2：郡本遺跡群(第7次)・南岩崎仲山遺跡(第3次)
図版3：小鳥向遺跡(第4地点)・山木遺跡群(出戸地区)
図版4～7：出土遺物

## 1 調査遺跡の位置と概要

今回、市内遺跡発掘調査事業で発掘調査を実施した遺跡は、5ヶ所である。所在地は北部の市原地区が2ヶ所、山木地区が1ヶ所、中部の三和地区が1ヶ所、南部の南総地区が1ヶ所である。

稲荷台遺跡M地点は、東京湾に面する海岸平野を西方1.2kmの位置に望む標高27m前後の台地奥部に位置する。東側は小支谷が複雑に入り込んでいる。これまで数次にわたる調査が行われてきており、平成14年度に隣接する西側部分でJ地点として調査が行われ、古代官道の一部と考えられる道路状遺構を検出している。平成17年度においては、隣接する東側部分でK地点として調査が行われ、古墳時代中期まで遡る円墳や、古墳時代後期～奈良・平安時代の竪穴住居跡を確認している。

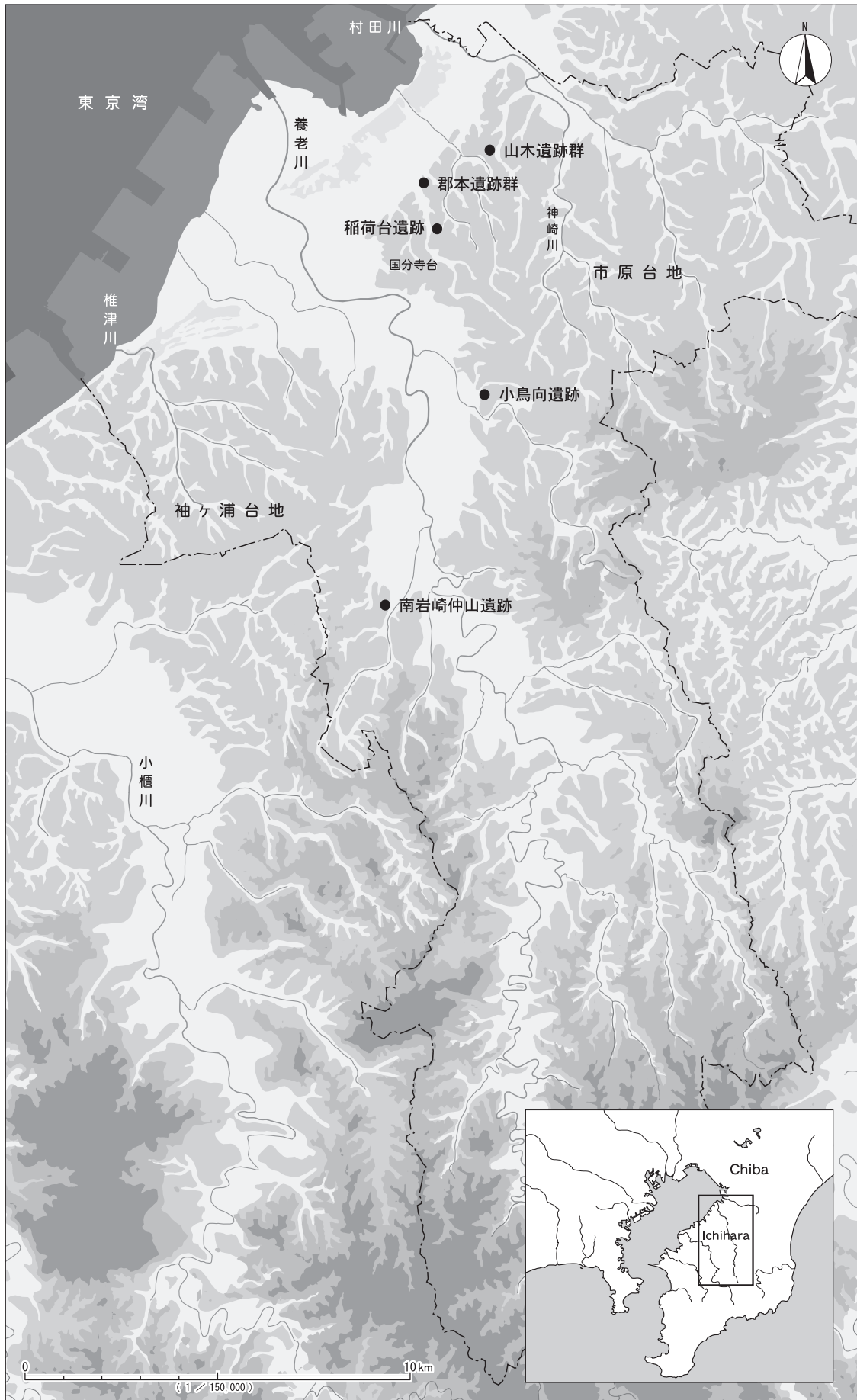
郡本遺跡群（第7次）は、東京湾に面する海岸平野を西方400mの位置に望む標高20～22m程度の台地西端部に位置する。平野との比高差は14m程ある。遺跡周辺は南東150mに位置する郡本八幡神社を中心に市原郡衙推定地となっており、これまで小規模ながら数次の調査が行われ、掘立柱建物跡や溝跡及び弥生時代後期～奈良・平安時代の竪穴住居跡等が検出されている。

南岩崎仲山遺跡（第3次）は、養老川中流域左岸を東に望む標高65～66m前後の台地上に位置する。台地は、市原市栢橋付近より端を発し、養老川中流域に流れ込む戸田川によって南北に樹枝状に開析されており、吉野1号墳が存在する西国吉の台地とは東西に分断されている。遺跡は、養老川へと広がる氾濫平野の開口部にあたる。戸田川によって開析された小支谷南側を中心に展開している報恩寺古墳群は、径10～20m程の円墳を中心に、現在25基程の古墳が確認されている。その中であって墳丘長70m前後と推定される前方後円墳であり、中心的な古墳であったと考えられる報恩寺3号墳の前方部に隣接する範囲を調査した。周溝の一部を確認している。

小鳥向遺跡（第4地点）は、養老川中下流右岸を西約2kmに望む標高23m前後の微高地である段丘面上に位置する。北側には樹枝状に開析された標高40～60m前後の台地が迫っており、比高差は40m程ある。南側は養老川水系によって浅い谷が入り込んでおり、南西方向に向かって沖積平野を形成している。そして、国道297号付近を中心とした自然堤防上には中・近世から続く集落が点在する。遺跡は三和地区の新堀に位置し、平成11・13年度に西側100mの場所において小鳥向遺跡（第1・第2地点）として調査が行われ、古墳時代前期の方形周溝墓の他、15世紀を中心とする遺構や鋳造関連の遺物が大量に出土した。また、同じく西方300mには叶台遺跡が存在し、弥生時代中期宮ノ台式期～古墳時代後期に至る竪穴住居跡が継続的に検出されている。

山木遺跡群（出戸地区）は、東京湾に面する海岸平野を西に約1.3kmの位置に望む標高26～27m前後の台地上の奥部に位置する。北からは村田川水系によって開析された小支谷によって、大厩遺跡などが存在する東側の辰巳台の台地とは東西に分断されている。谷との比高差は13～14m程である。また、支谷を北に2km程進むと村田川左岸を望む菊間古墳群が展開している。一方、西方70mには室町期14世紀に作られたと考えられている市指定文化財である木造聖観音菩薩坐像を安置する常德院がある。ちなみに、本寺院を中心とした半径200m周辺が山木城跡として周知されている。近隣の調査例としては、西側200mの位置において、平成4年度に山木深堀遺跡が調査されており、平安期の竪穴住居跡や地下式横穴墓が確認されている。

# 調査遺跡の位置と概要



第1図 調査遺跡位置図

## 2 稻荷台遺跡M地点

**遺跡の位置** 稻荷台遺跡M地点は、平成14年度に古代官道と考えられる道路状遺構を検出したJ地点と、平成17年度に円墳と考えられる周溝や、古墳時代後期から奈良・平安時代の竪穴住居跡を確認したK地点と東西に隣接した位置に存在する。ちなみに、稻荷台遺跡は「王賜銘鉄剣」を出土した稻荷台1号墳をはじめとした小規模な円墳群や、祭祀遺構を伴う在庁官人の曹司などの官衙的建物跡群と考えられる遺構が検出されており、古墳時代～奈良・平安時代にわたる濃密な遺構群の存在が知られている場所である。

**調査概要** 今回は、個人住宅の建設に先立って調査が行われ、施工上切り土せざるを得ず、保護層の確保が困難な部分については、一部遺構を掘り上げて調査を行ったものである。

調査の結果、3トレンチにおいて中世まで遡る可能性がある地下式壙状土坑1基と、1トレンチにおいてピット2基を確認した。3トレンチ地下式壙状土坑(1号跡)については一部を掘り上げており、径1.92×1.36m、深さ0.98mを測る。入口(竪坑)部と考えられ、東方の国道部分に主体部(玄室)があると推定される。方形のしっかりした掘り込みであり、覆土は暗褐色土が主でロームブロックを均等に包含していた。遺物は極めて少量であり、図示できる遺物の出土はなかった。トレンチ内出土遺物としては、図示していないが中世常滑窯の甕片(写真図版4-3トレ7)が出土している。他には、ロクロ成形に伴う回転糸切り痕跡を残す土師器杯底部片1・2や内面黒色処理を施す椀形土器の底部3、甕口縁部4及び確認面上より寛永通宝5・6が出土している。1トレンチ・2トレンチにおいては、旧家屋に伴う遺構確認面の攪乱が著しく、遺構の把握は極めて困難であったが、1トレンチにおいては、掘り込みのしっかりしたピットを2基確認した。P1は深さ0.2m程であるが、柱当たり痕跡が確認された。P2は深さ0.5m程度を測る。状況から近世より以前に遡る可能性があるが、具体的な時期は不明である。2トレンチにおいては、ロームブロックを大量に包含する方形の攪乱穴が多数見受けられたが、このなかには3トレンチで確認した地下式壙状の土坑が存在したかもしれない。

**出土遺物** 上記のように現場は旧家屋の影響で遺構確認面の攪乱が著しく、その他遺跡一括遺物についても、出土した遺物量は極めて僅かだった。1は、内外面黒色処理が行われ丁寧にミガキが施されており、器厚が薄い。土師器椀か。2は杯底部片、3は須恵器杯口縁部片である。

稻荷台遺跡M地点

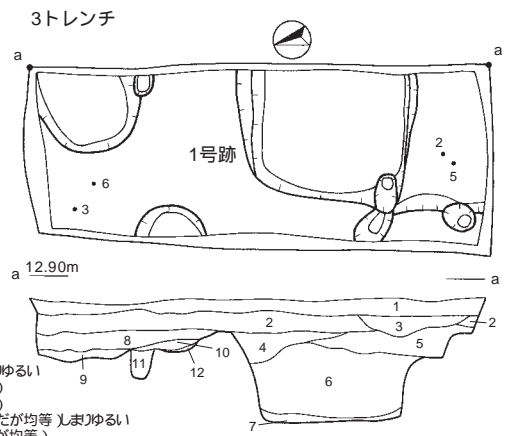
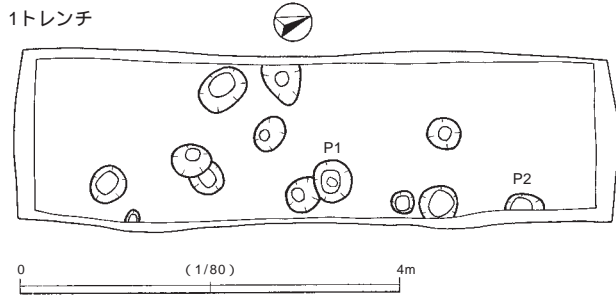
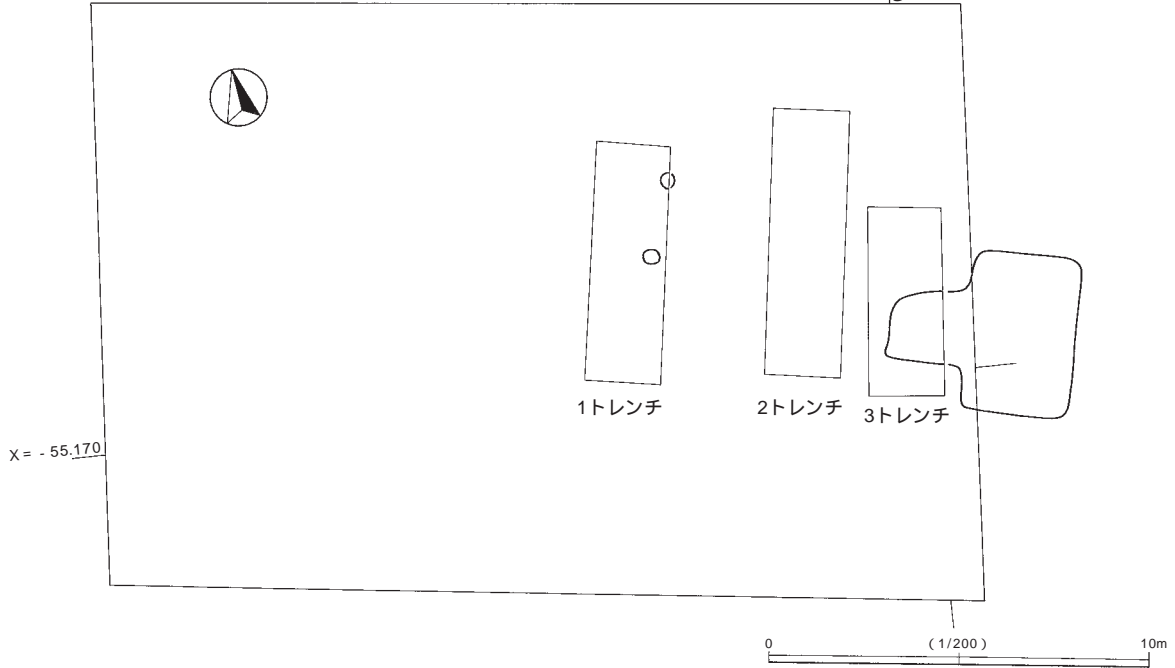


第2図 稻荷台遺跡位置図 (1/2,500)



稻荷台遺跡M地点

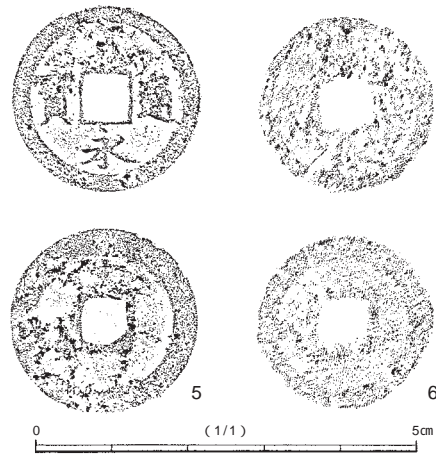
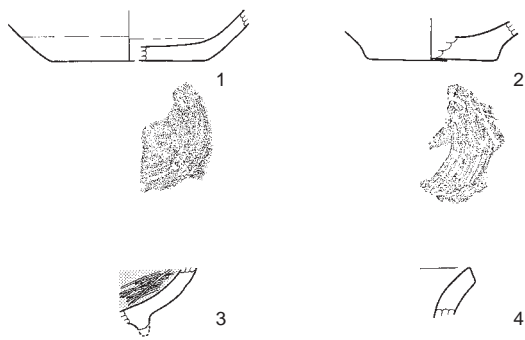
Y = 26,700



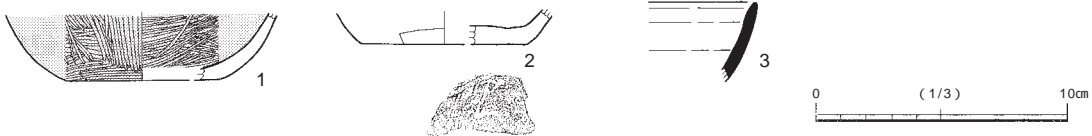
- 3トレンチ  
SP a-a
- 1 現表土
  - 2 暗褐色土+ローム粒(5mm~1cm大・少量だが均等)
  - 3 カクラン土
  - 4 暗褐色土(サラサラしている)
  - 5 黒褐色土+ロームブロック(5mm~2cm大・微量)
  - 6 暗褐色土+ロームブロック(1~4cm大・均等しまりゆるい)

- 7 黒褐色土+ローム粒(5mm~1cm大・少量しまりゆるい)
- 8 黒褐色土+ロームブロック(5mm~2cm大・少量)
- 9 暗褐色土+ロームブロック(5mm~2cm大・均等)
- 10 黒褐色土+ロームブロック(5mm~1cm大・少量だが均等しまりゆるい)
- 11 黒色土+ロームブロック(5mm~1cm大・少量だが均等)
- 12 黒褐色土(少量)+ロームブロック(5mm~1cm大・均等)

3トレンチ出土遺物



一括出土遺物



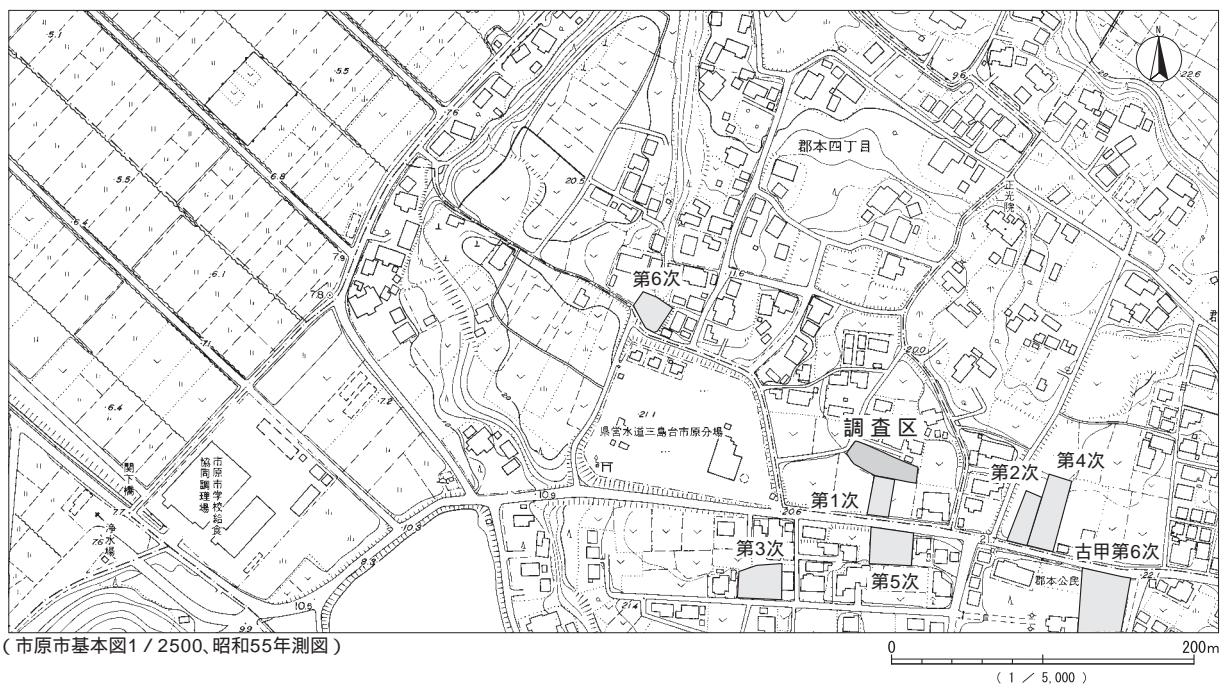
第3図 全体図・遺構図・出土遺物

### 3 郡本遺跡群（第7次）

**遺跡の位置** 郡本遺跡群（第7次）は、西方約2kmに東京湾旧海岸線を望む標高22m前後の市原台地西端に位置し、南東約0.15kmにある郡本八幡神社を中心として市原郡衙関連遺構の存在が考えられていることから、これまで小規模ではあるが数次にわたる発掘調査が行われてきている。ちなみに隣接する南側においては、昭和60～61年度に郡本遺跡（第1次）として調査が行われ、平安時代の竪穴住居跡や帯金具である巡方が出土している。また、南西側約0.1kmでは平成9年度に第3次として調査が行われており、古墳時代後期～奈良時代の竪穴住居跡、平安時代の溝状遺構などが検出されている。

**調査概要** 今回は、個人住宅の建設に先立って調査が行われ、施工上切り土せざるを得ず、保護層の確保が困難な部分については、一部遺構を掘り上げて調査を行ったものである。

**調査の結果** ほぼ全てのトレンチから遺構が確認されており、調査範囲全体に遺構が展開しているものと思われる。2トレンチにおいては、平安時代の竪穴住居跡を確認した。遺構は、焼土及び炭化材が出土しており、火災を受けた可能性がある。ロクロ成形に伴う底部糸切り離し無調整の土師器杯4・8や、甕口縁部13～15などが出土している。他には胎土が白色味を帯び、底部が高台より突出する須恵器杯底部片17などの須恵器片が出土しているが、いずれも小片である。3トレンチでは、古墳時代前期の竪穴住居跡を確認した。遺構は、焼土及び炭化材が大量に出土しており、火災を受けたものと考えられる。一部床面まで掘り下げたところ、明瞭な硬化面が検出された。ゴボウ耕作に伴うトレンチャーによって出土位置が不確実な要素が多いものの、台付甕の台脚部11が床面直上付近で出土し、ハケメを施し口縁部にヘラ状工具による刻み目の残る土師器甕口縁部5をはじめとした甕6～9などが下層部分より出土している。また、ヘラミガキを施し杯部が大きく開く高杯4や台付甕の台脚部12・13などが中層より出土している。他に、回転糸切り痕跡を残す土師器杯底部14・15などが出土しているが混入であろう。4トレンチでは、弥生時

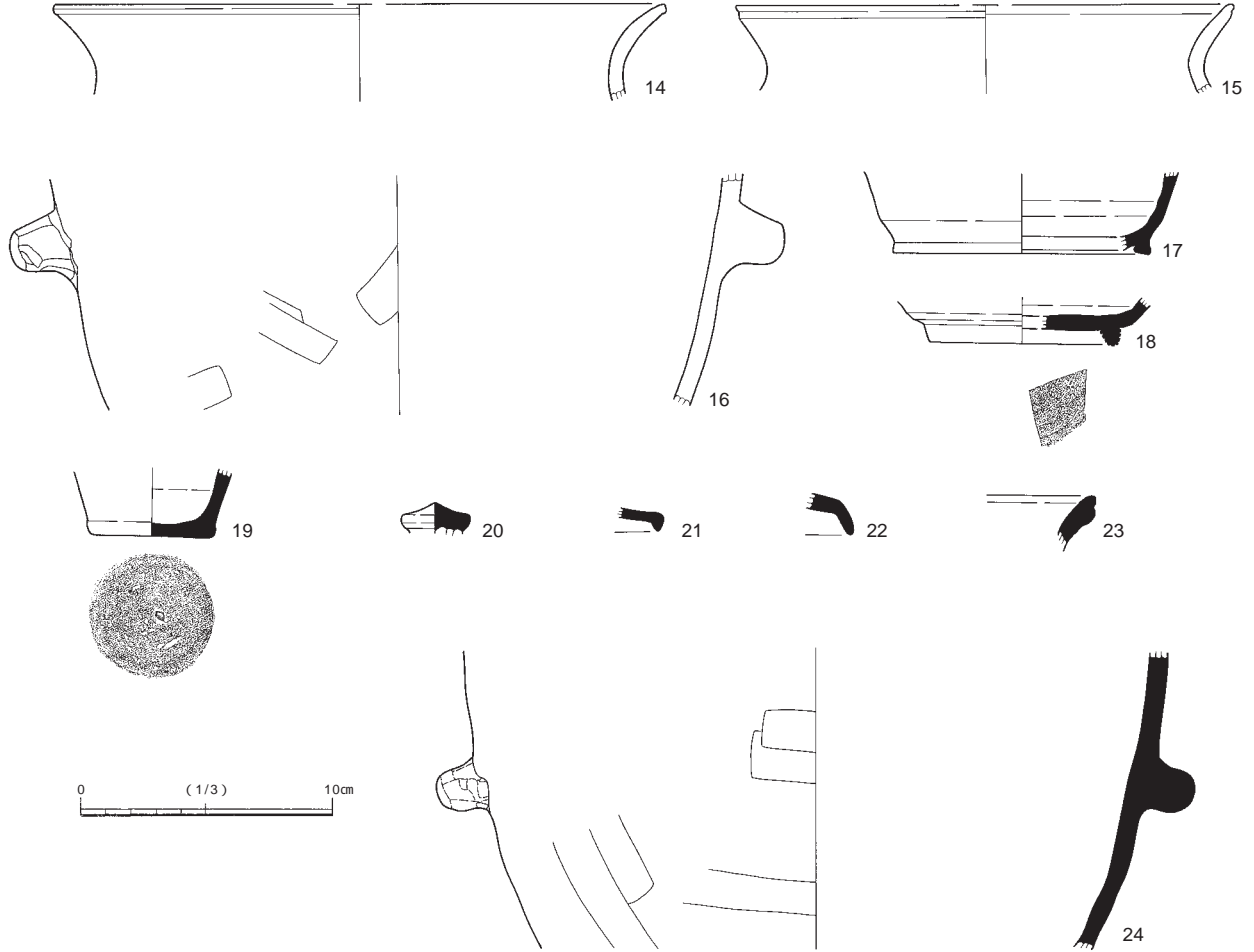


第4図 郡本遺跡群（第7次）位置図

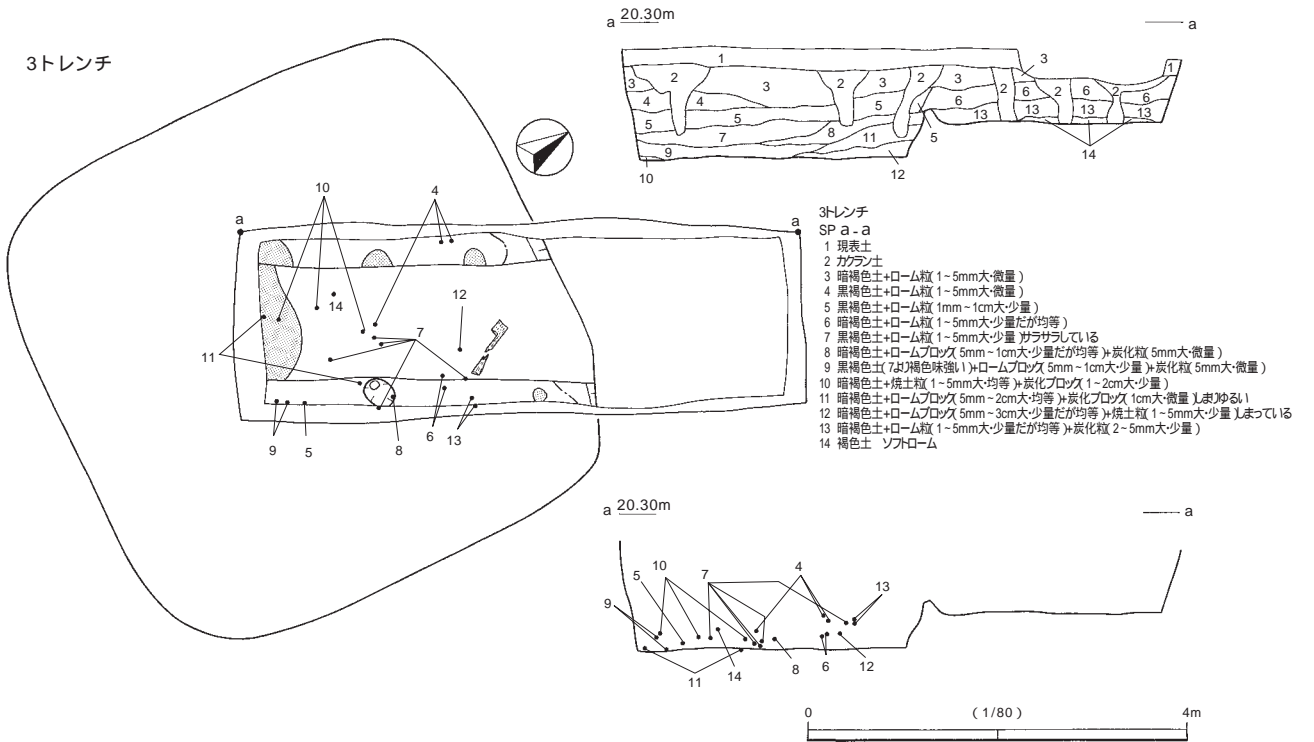


郡本遺跡群（第7次）

出土遺物



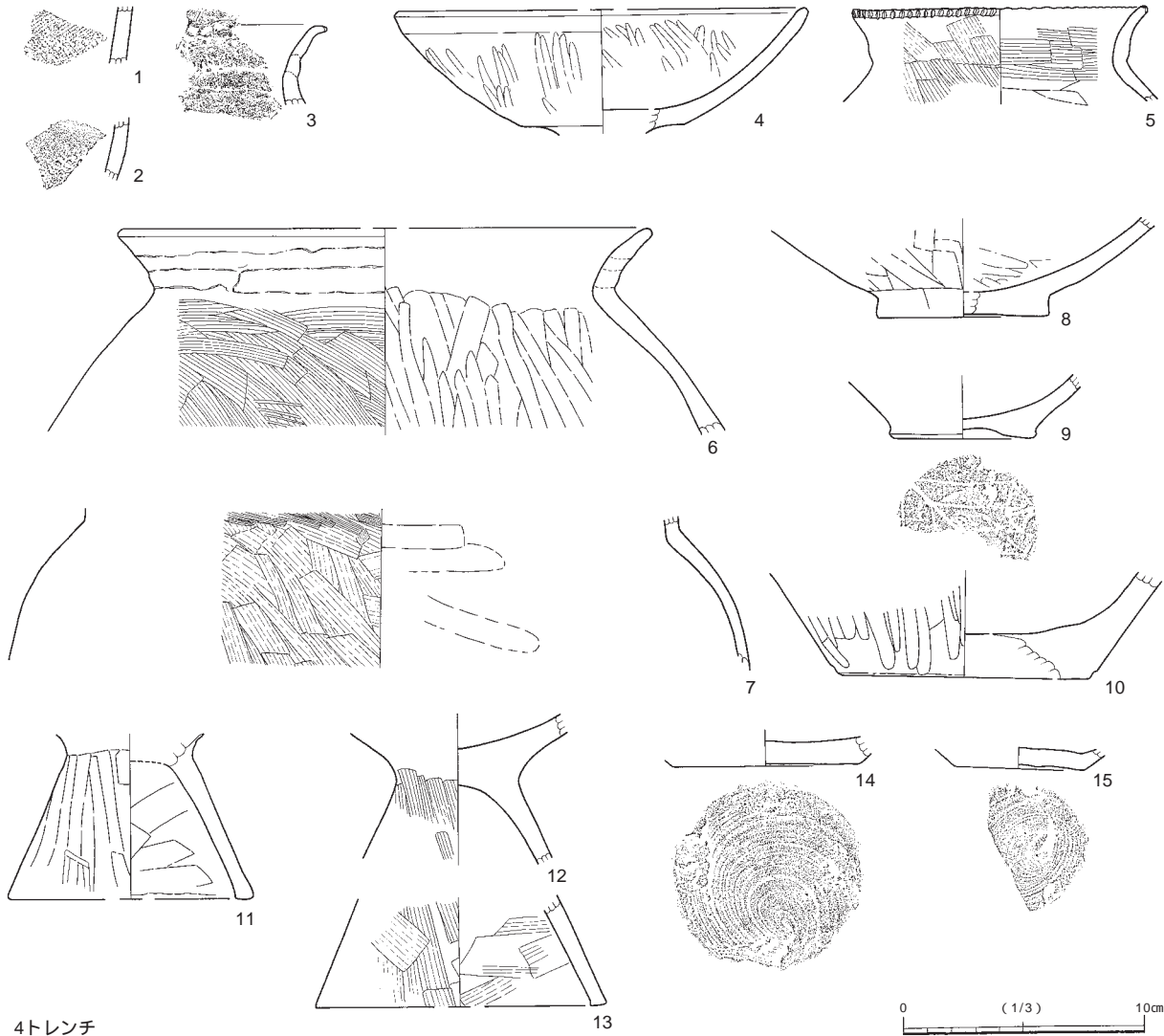
3トレンチ



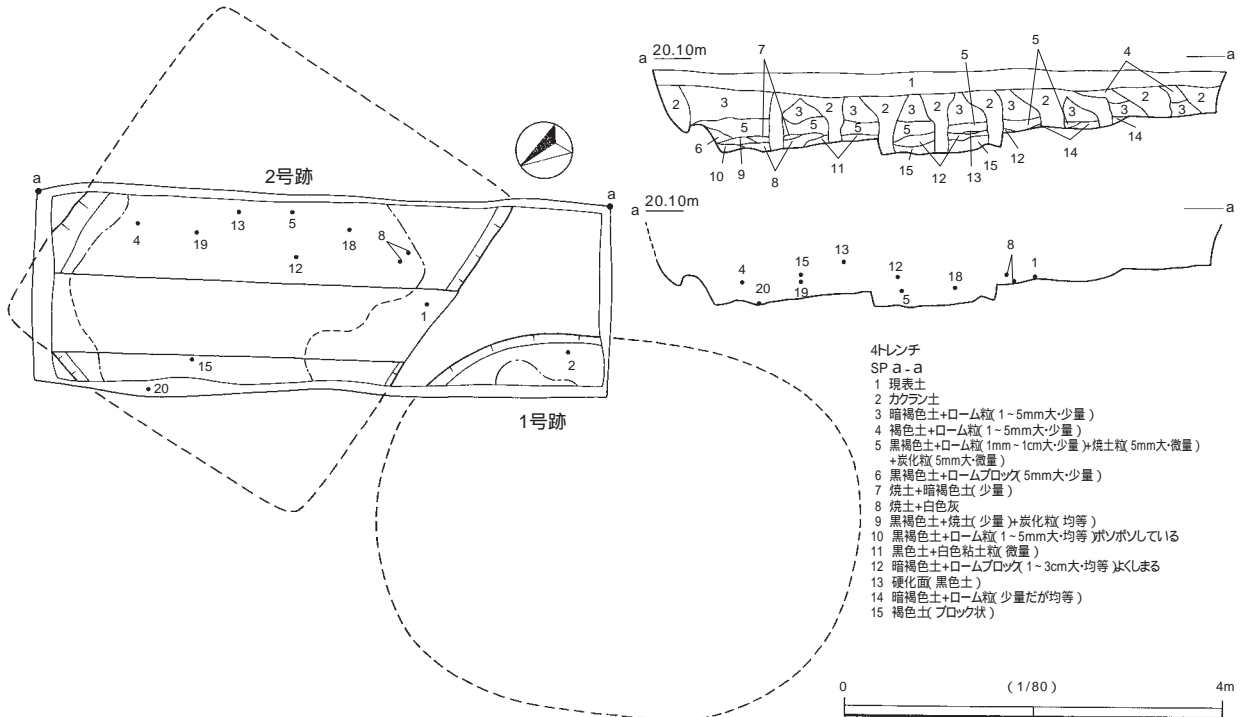
第6図 遺構図・出土遺物

郡本遺跡群（第7次）

出土遺物



4トレンチ

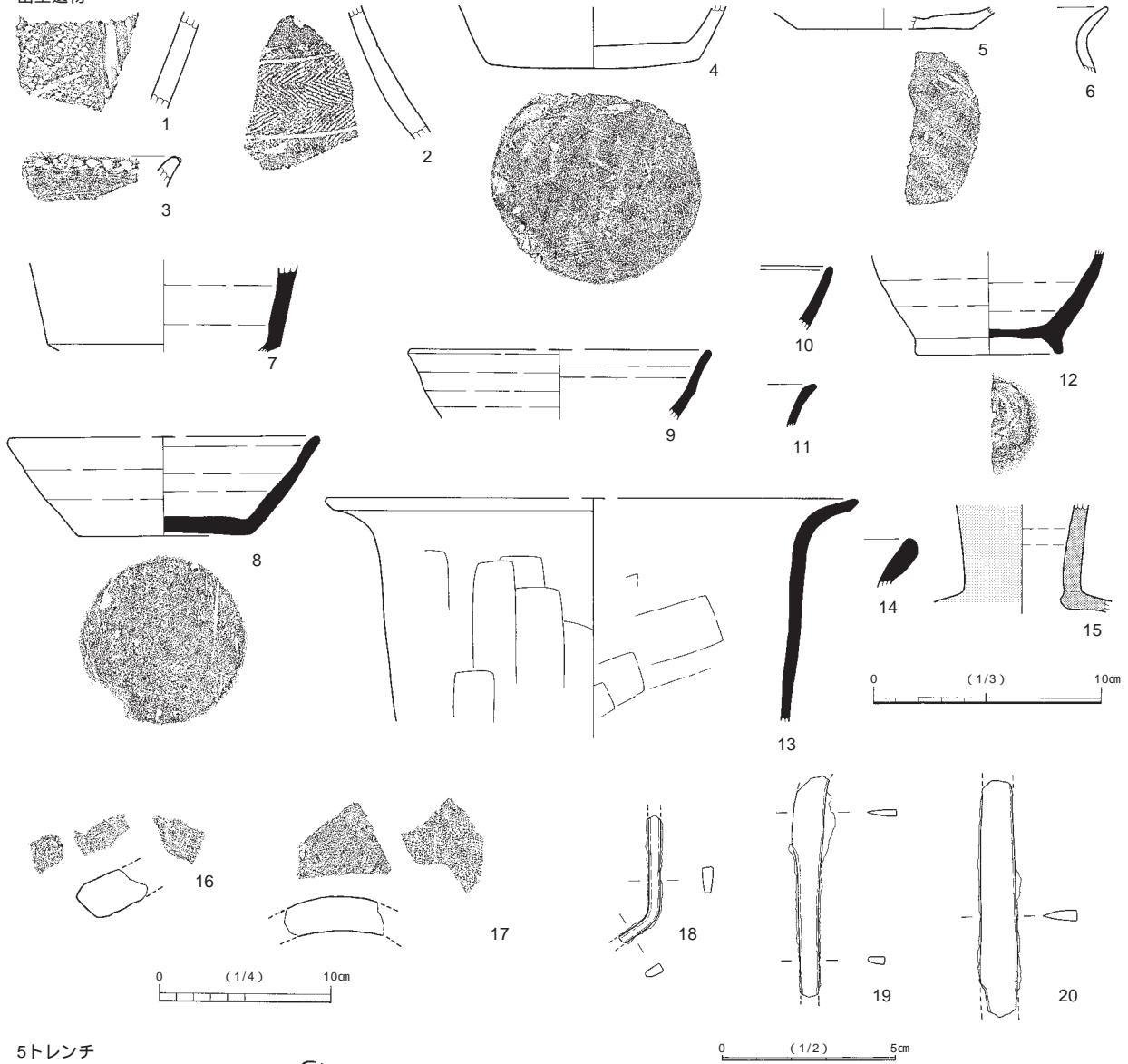


- 4トレンチ  
SP a-a
- 1 現表土
  - 2 カクラン土
  - 3 暗褐色土+ローム粒(1~5mm大少量)
  - 4 褐色土+ローム粒(1~5mm大少量)
  - 5 黒褐色土+ローム粒(1mm~1cm大少量)+焼土粒(5mm大微量)+炭化粒(5mm大微量)
  - 6 黒褐色土+ロームブロック(5mm大少量)
  - 7 焼土+暗褐色土(少量)
  - 8 焼土+白色灰
  - 9 黒褐色土+焼土(少量)+炭化粒(均等)
  - 10 黒褐色土+ローム粒(1~5mm大均等) 灰ソボシしている
  - 11 黒色土+白色粘土粒(微量)
  - 12 暗褐色土+ロームブロック(1~3cm大均等) 灰しまる
  - 13 硬化面(黒色土)
  - 14 暗褐色土+ローム粒(少量だが均等)
  - 15 褐色土(ブロック状)

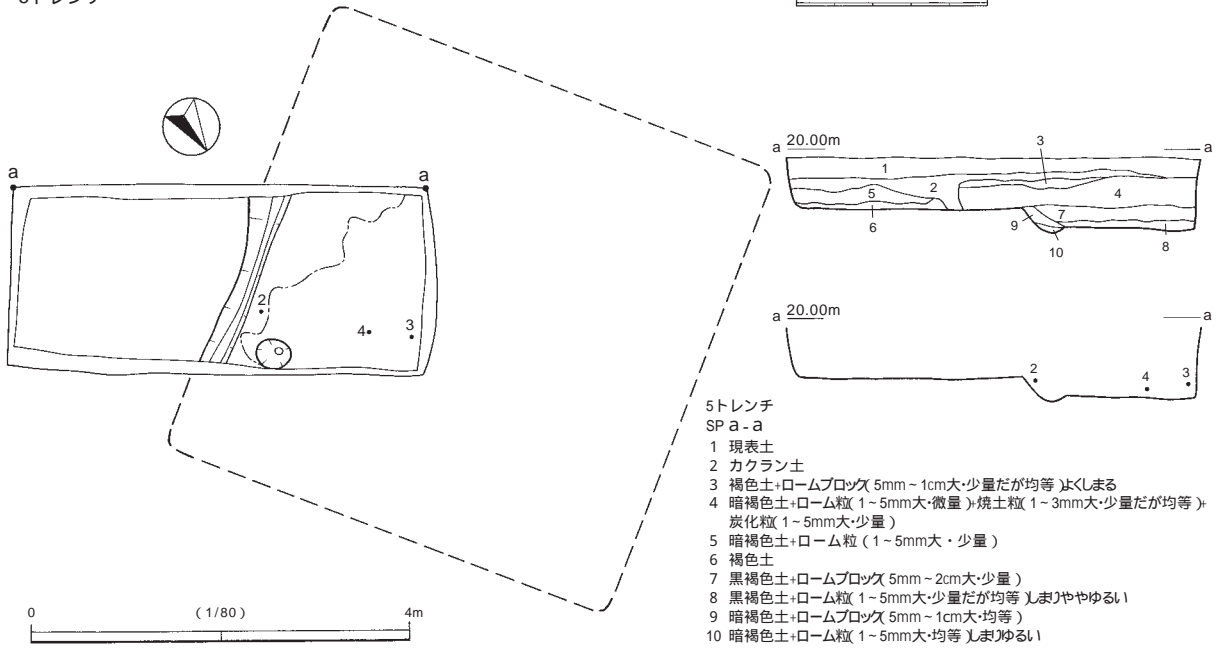
第7図 遺構図・出土遺物

郡本遺跡群（第7次）

出土遺物



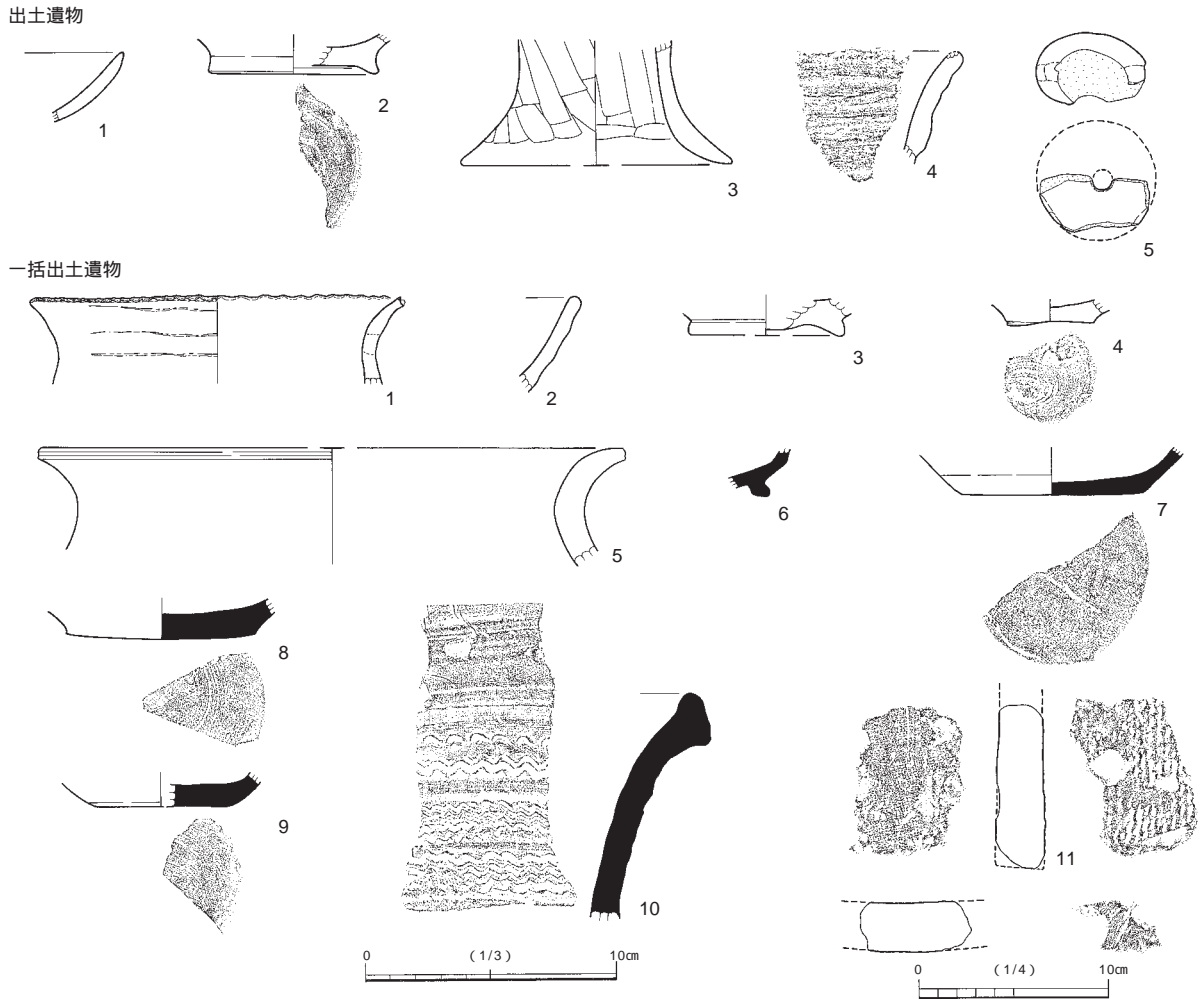
5トレンチ



- 5トレンチ  
SP a - a
- 1 現表土
  - 2 カクラン土
  - 3 褐色土+ロームブロック 5mm~1cm大・少量だが均等 ばくしまる
  - 4 暗褐色土+ローム粒(1~5mm大・微量)+焼土粒(1~3mm大・少量だが均等)+炭化粒(1~5mm大・少量)
  - 5 暗褐色土+ローム粒(1~5mm大・少量)
  - 6 褐色土
  - 7 黒褐色土+ロームブロック 5mm~2cm大・少量)
  - 8 黒褐色土+ローム粒(1~5mm大・少量だが均等)しまりややゆるい
  - 9 暗褐色土+ロームブロック 5mm~1cm大・均等)
  - 10 暗褐色土+ローム粒(1~5mm大・均等)しまりゆるい

第8図 遺構図・出土遺物

郡本遺跡群（第7次）



第9図 出土遺物

代後期の竪穴住居跡1軒（1号跡）と平安時代の竪穴住居跡1軒（2号跡）が確認されている。1号跡は東側の一部を確認したに過ぎないが、西側に向かって硬化面が広がっていくと考えられる。遺物は少量であり、羽状縄文帯を沈線で区画した弥生後期壺片2が出土している。2号跡は、北東部分において白色粘土が出土しており、カマド構築材と思われる。一部床面まで掘り下げており、硬化面が確認された。出土遺物は、ゴボウ耕作に伴うトレンチャーによって出土位置が不確実な要素が多いものの、須恵器杯8及び板状鉄製品20が床面上より出土している。また、底部手持ちヘラケズリの土師器杯4、須恵器壺底部12、甑13及び灰釉陶器の長頸壺片15などが中層より出土した。他には床面付近より縄文中期深鉢土器片1が出土しているが混入であろう。5トレンチは浄化槽設置箇所であることから遺構を掘り上げており、古墳時代後期と考えられる竪穴住居跡を検出している。ゴボウ耕作に伴うトレンチャーによって床面が破壊されており、出土遺物は少ないが土師器杯口縁部1や高杯脚部3などが出土している。

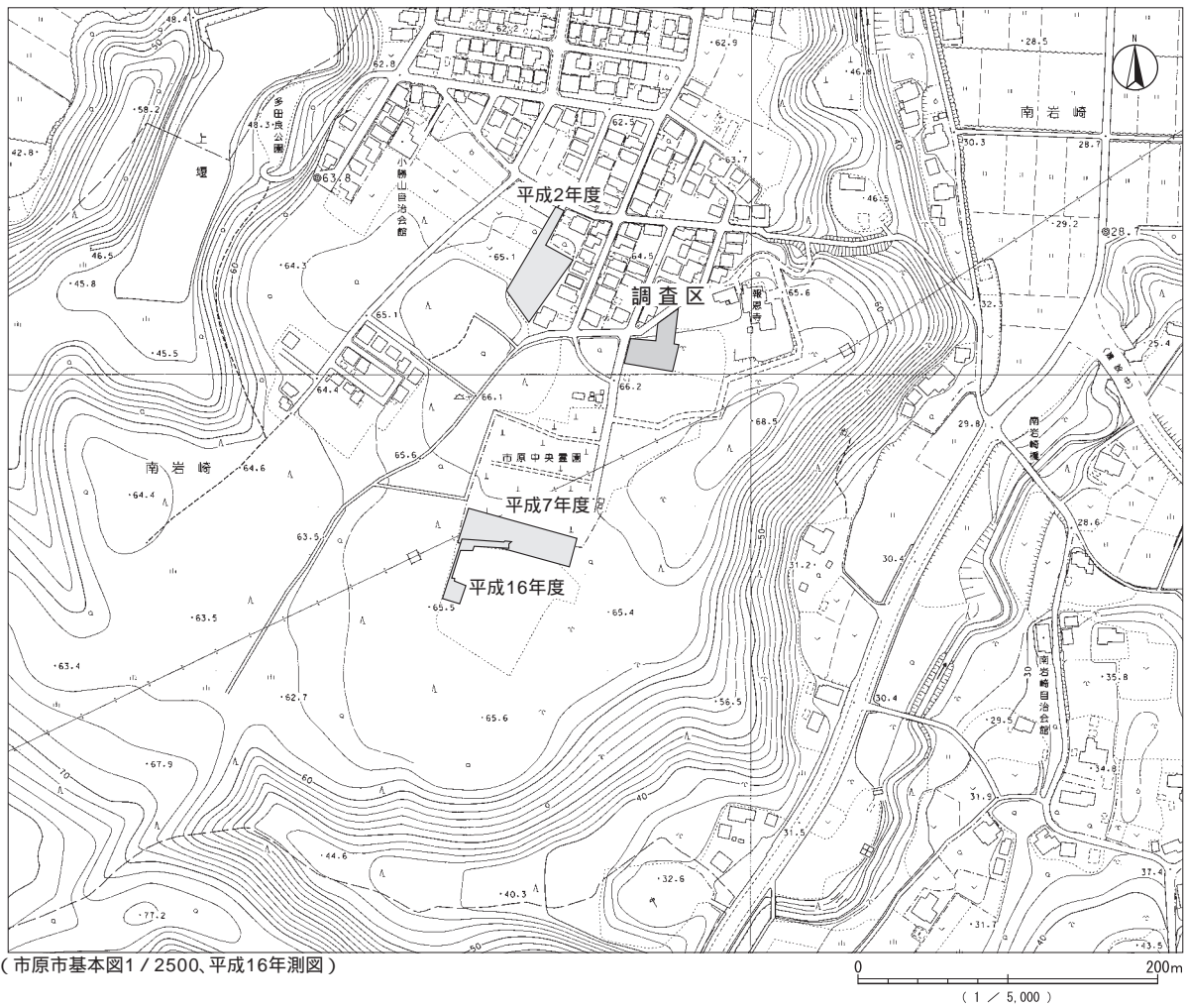
**出土遺物** その他遺跡一括遺物としては、口縁にヘラ状工具による刻み目を持ち、輪積み痕跡が残る弥生時代後期の甕片1や、底径が小さくロクロ成形に伴う回転糸切り痕跡が残る土師器杯底部4、底部が高台より突出すると考えられる須恵器杯底部片6、頸部に櫛描波状文を施す甕片10及び平瓦片11などが出土している。

## 4 南岩崎仲山遺跡（第3次）

**遺跡の位置** 南岩崎仲山遺跡（第3次）は、養老川中流域左岸に広がる沖積平野を東に望む標高65m前後の台地上に位置する。本市栢橋付近より流れ、馬立で養老川と合流する支流戸田川によって西国吉の台地とは分断されており、現場は沖積平野の開口部にあたる。その東側が報恩寺古墳群として周知されている場所である。径70m前後の前方後円墳である報恩寺3号墳の前方部に接する部分が調査範囲となる。周溝の範囲確認及び帰属時期の把握が求められた。

周囲では、これまで平成2年度において北西約0.05kmの位置に、南岩崎多田良遺跡として調査が行われており、弥生時代後期と考えられる竪穴住居跡が確認されている。また、南方0.15kmにおいて平成7・16年度に南岩崎仲山遺跡として調査が行われており、7世紀の方形周溝状遺構や中世期と考えられる溝状遺構が検出されている。

**調査概要** 今回は、報恩寺の本堂移転に伴って調査が行われた。調査の結果、1～3・6トレンチから古墳の周溝を確認した。周溝は、調査範囲の制約で墳丘側は、底面から中位の立ち上がりしか確認できなかったが、8～9mの周溝幅を推定できる。一部墳丘測量を行い、発達した前方部の状況から後期の可能



第10図 南岩崎仲山遺跡（第3次）位置図



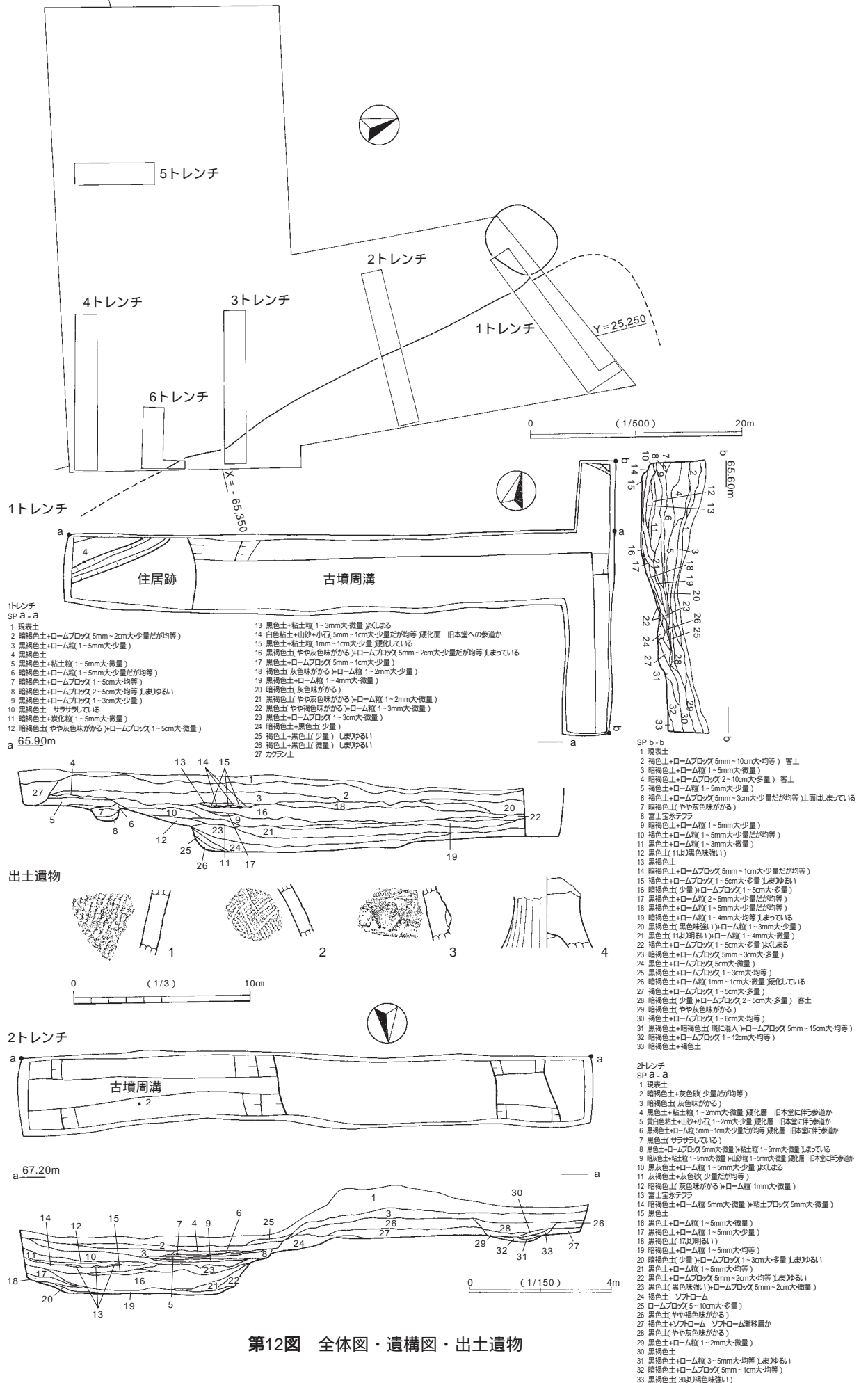
南岩崎仲山遺跡（第3次）



第11図 報恩寺3号墳と調査範囲

〔千葉県重要古墳群測量調査報告書・市原市安須・武士古墳群ほか・1996  
千葉県教育委員会 測量図を一部改変・転載〕

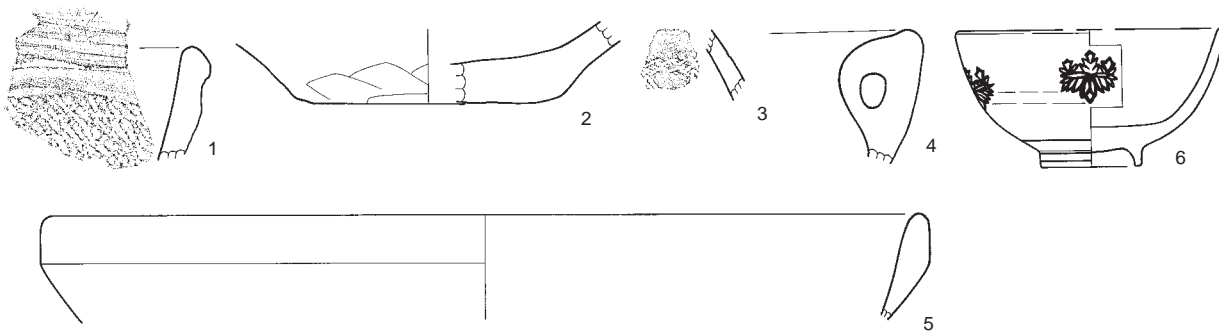
南岩崎仲山遺跡 (第3次)



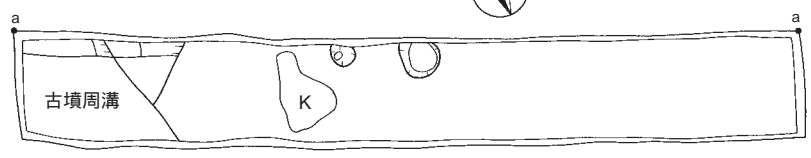
第12図 全体図・遺構図・出土遺物

南岩崎仲山遺跡 (第3次)

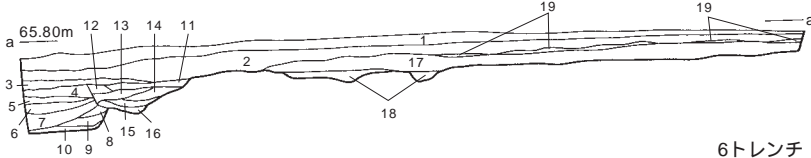
出土遺物



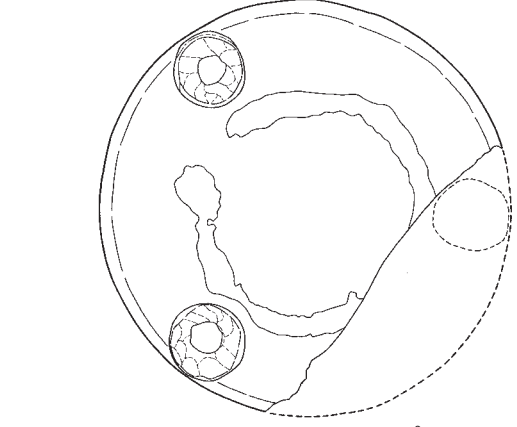
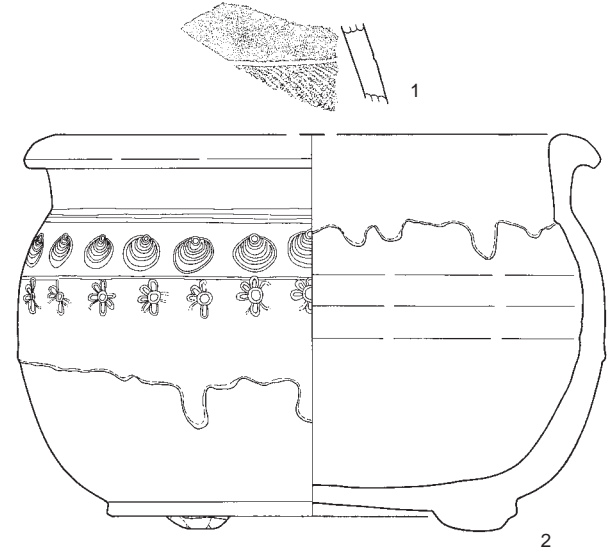
3トレンチ



- 3トレンチ  
SP a-a
- 1 現表土
  - 2 暗褐色土 やや灰色味がかかる
  - 3 暗褐色土+白灰色粘土ブロック 1~7cm大少量
  - 4 暗褐色土(黒色味がかかる) 白色粘土粒 1~5mm大少量だが均等
  - 5 黒褐色土+ロームブロック 5mm~1cm大微量 白色粘土粒 1~5mm大微量
  - 6 黒色土
  - 7 黒色土(6枚明るい) 1~5mm大少量
  - 8 黒褐色土+ローム粒 1~5mm大少量だが均等
  - 9 黒褐色土(褐色味強い) 1~5mm大少量 10cm大均等しまりゆるい
  - 10 黒褐色土(少量) 1~5mm大少量
  - 11 黒褐色土
  - 12 暗褐色土+ローム粒 1~5mm大少量
  - 13 黒褐色土(11枚明るい)
  - 14 黒褐色土(13枚明るい)
  - 15 黒褐色土+ロームブロック 5mm~4cm大少量だが均等
  - 16 暗褐色土+ロームブロック 1~4cm大均等しまりゆるい
  - 17 暗褐色土(灰色味がかかる) 1~5mm大少量 5mm~2cm大少量 炭化粒 (5mm~1cm大少量) 白色粘土ブロック 1~2cm大微量 日本堂関連の堆積土が
  - 18 暗褐色土 やや灰色味がかかる 1~5mm大少量 10cm大少量だが均等
  - 19 灰白色砂(多量) 白色粘土(均等) 焼土ブロック 5mm~1cm大少量だが均等 炭化ブロック 5mm~1cm大均等 日本堂関連の堆積土が 一部はくまっています

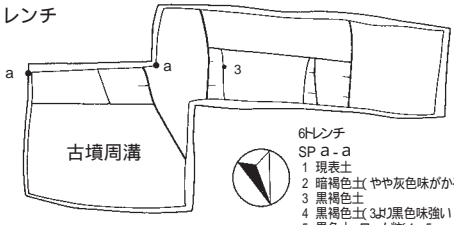


3トレンチ出土遺物

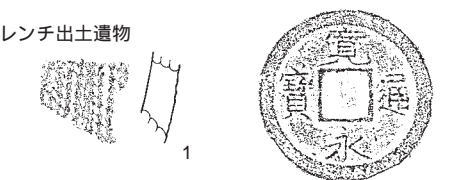


0 (1/3) 10cm

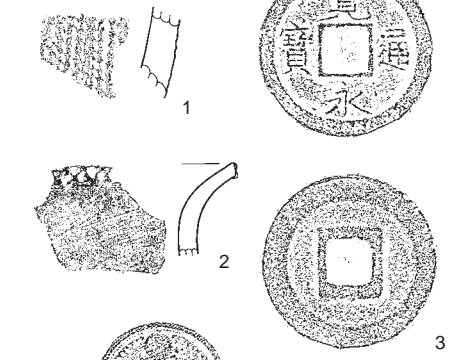
6トレンチ



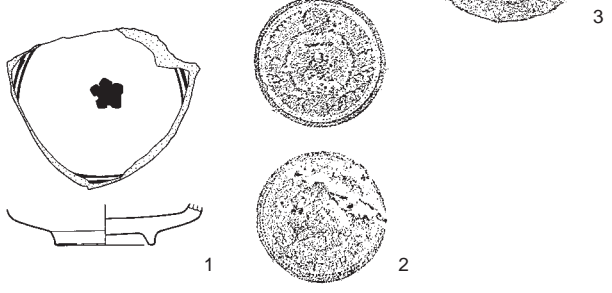
- 6トレンチ  
SP a-a
- 1 現表土
  - 2 暗褐色土 やや灰色味がかかる
  - 3 黒褐色土
  - 4 黒褐色土(3枚黒色味強い)
  - 5 黒色土+ローム粒 1~5mm大微量
  - 6 暗褐色土+ローム粒 1~5mm大少量だが均等
  - 7 暗褐色土+ロームブロック 5mm~1cm大少量だが均等
  - 8 黒褐色土+ローム粒 1~5mm大少量しまりゆるい
  - 9 暗褐色土+ロームブロック 5mm~1cm大均等



6トレンチ出土遺物



一括出土遺物



0 (1/1) 5cm (錢貨のみ)

第13図 遺構図・出土遺物

### 南岩崎仲山遺跡（第3次）

性も考えられるが、出土遺物から帰属時期を判断することはできなかった。

一方、近世期において本堂があったとされている南側平坦面に設定した4・5トレンチからは中世以前の遺構は確認されず、日本堂関連と思われる焼土及び旧参道と考えられる道路状の硬化面などが確認されたのみであった。

1トレンチにおいては、弥生時代後期の竪穴住居跡及び古墳周溝を確認した。住居内より図示できる遺物の出土は殆どなかったが、覆土の状況及び周囲の調査事例を鑑み住居跡とした。ちなみに、住居跡より高杯の脚部4が出土しているが、混入と考えられる。

古墳周溝は、黒色味の強い覆土を基本とし、墳丘付近では一部ロームブロックが堆積していた。墳丘盛り土の崩落であろうか。当トレンチは前方部周溝の北側コーナー付近にあたり、墳丘側の立ち上がりは確認できなかった。東側の現状落ち込み方向に向かって、周溝が延びていくと考えられる。遺物は僅少であり、弥生時代後期土器片2・3が覆土中より出土したのみである。

2トレンチにおいては、東側で古墳周溝を確認している。調査範囲の制約で墳丘側は、底面から中位の立ち上がりしか確認できなかったが、トレンチ内において幅6.5m・深さ1mの周溝を確認した。8～9m程度の周溝幅が推定される。遺物は、底面上より弥生時代後期の可能性が高い甕の底部2が出土している。堆積土の上層には富士宝永テフラが堆積しており、その上層に道状の硬化面が確認された。近世期の日本堂への参道であろう。

一方、西側の土塁状の高まりについては半裁し断面観察を行ったが、自然堆積の様相を呈し人為的な盛り土の状況は確認できなかった。近世期の日本堂建立に伴う平場造成時における、寺院地を区画する目的を含めた切り残しであろうか。ちなみに、直下に浅い溝状の落ち込みが確認されたが、掘り込み面は新しいと考えられる。

3トレンチでは、東端部において古墳周溝を確認している。深さ1m程度を測り、西側が土坑状の掘り込みによって切られていた。古墳周溝から弥生時代後期壺片1が出土している。

6トレンチにおいても、東端部において古墳周溝を確認した。周溝は、南東方向に延びていくものと考えられる。西側は近世期の溝であり、覆土中より寛永通宝3が出土している。

**出土遺物** 報恩寺古墳群の中核をなす大型の前方後円墳であるが、出土遺物は僅少であった。埴輪片等も採集されなかった。

その他の遺物としては、トレンチ一括出土遺物として1トレンチから縄文中期深鉢土器片1、2トレンチでは、近世期の遺物と考えられる焙烙4・5や瀬戸・美濃系陶器碗6などが出土している。また、3トレンチからは、瀬戸・美濃系陶器鉢2が出土している。そして、6トレンチからは縄文時代早期撚糸文系土器片1や弥生時代後期甕口縁部2などが出土している。

遺跡一括出土遺物としては、近世期瀬戸・美濃系陶器碗1や戦前の一銭貨2等が出土している。

## 5 小鳥向遺跡（第4地点）

**遺跡の位置** 小鳥向遺跡（第4地点）は、市原市中部の三和地区新堀に位置し、養老川中流域右岸に広がる沖積平野を西に望む標高22m前後の段丘面上に位置する。当地周辺は、養老川水系によって開析された小支谷が複雑に入り込んでおり、遺跡は背後に台地が迫る微高地上に存在する。ちなみに、沖積平野に展開する微高地上には、中・近世以降続く集落がある。周囲は、西方100mに小鳥向遺跡（第1・2地点）として調査が行われており、古墳時代前期の方形周溝墓や奈良・平安時代の竪穴住居跡及び中世戦国期を中心とした土坑群や鑄造関連遺物が検出されている。また、同じく西方300mには叶台遺跡が展開しており、弥生時代中期宮ノ台式期～古墳時代後期にかけての竪穴住居跡が継続的に検出されている。

**調査概要** 今回は、個人住宅の建設に先立って調査が行われ、施工上切り土せざるを得ず、保護層の確保が困難な部分については、トレンチを一部掘り上げて調査を行ったものである。

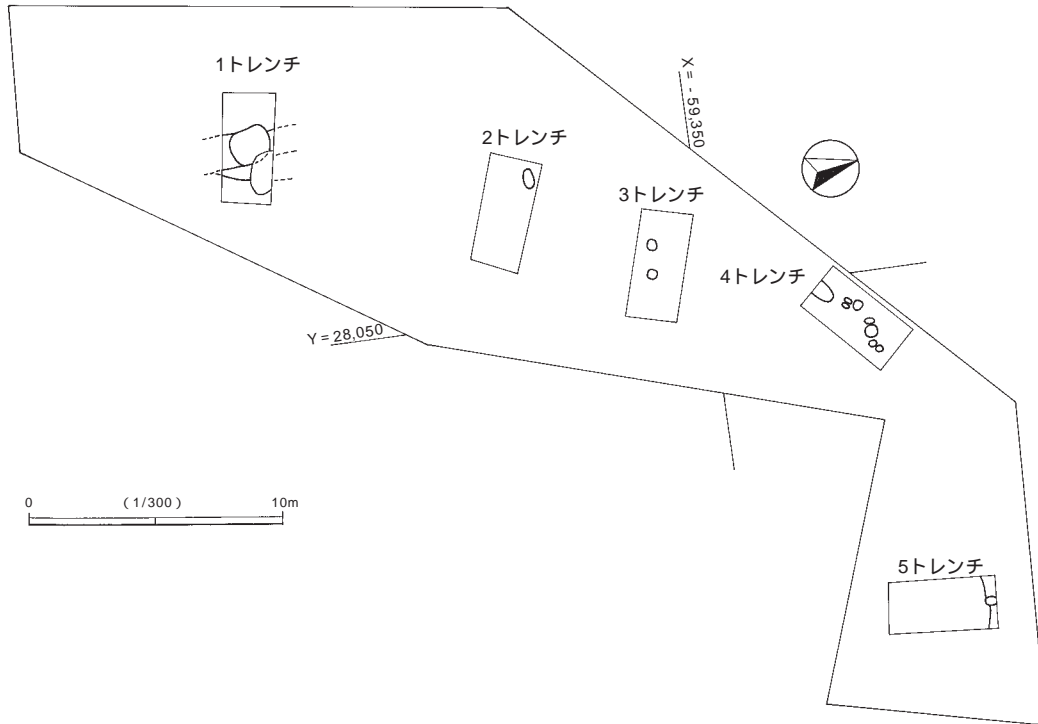
調査の結果、1トレンチから土坑状の落ち込みを確認した。平面規模は1.44×1.26m、深さは0.48mを測る。覆土上層部より焼土の堆積が確認され、層厚は20cm程度である。炭化材や鑄造関連遺物は出土しなかった。遺物は僅少で黒曜石の石鏃2が出土しているのみである。また、土坑を上面から南北に切るようにして、浅い溝状の落ち込みが確認された。遺物は南端付近より土師器杯の底部1が出土している。

**出土遺物** その他の遺物としては、3トレンチより土師器杯の口縁部1及び回転糸切り痕跡が残る底部片2が出土している。また、図示しなかったが炉壁部分と考えられる鑄造関連遺物（写真図版7 - 一括3）が1点のみ出土している。重量は8.4gを量り、間層にガラス質の濃緑色滓が観察された。

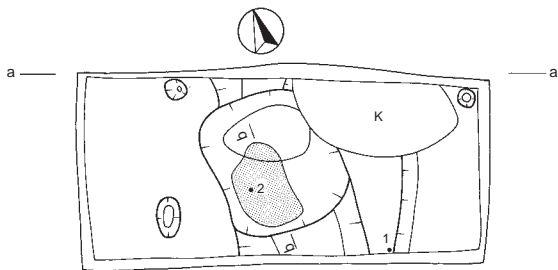


第14図 小鳥向遺跡（第4地点）位置図

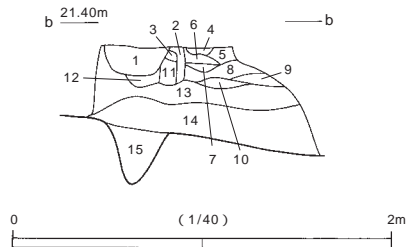
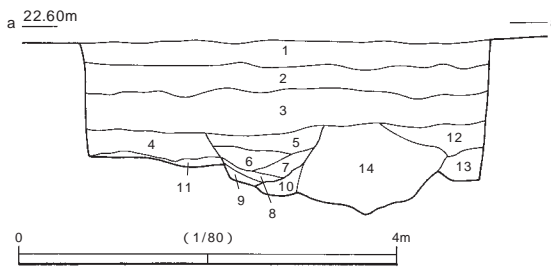
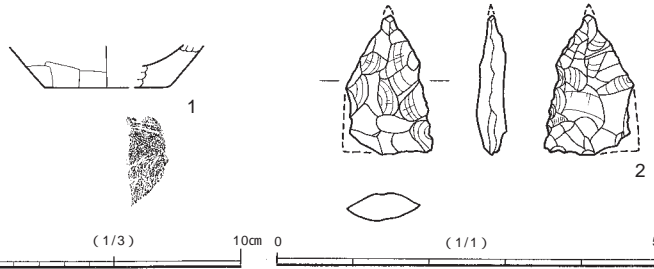
小鳥向遺跡 (第4地点)



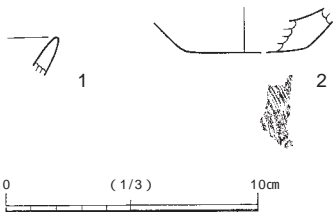
1トレンチ



1トレンチ出土遺物



一括出土遺物



1トレンチ  
SP a - a

- 1 現表土
- 2 黒褐色シルト質土 (やや灰色味がかかる)
- 3 黒褐色土
- 4 黒褐色土 (3より黒色味強い) + ロームブロック 1~3cm大・少量散る)
- 5 黒褐色土 (褐色味強い) + ロームブロック 1~2cm大・少量)
- 6 黒色土 + ロームブロック 5mm ~ 1cm大・微量)
- 7 黒色土 (やや褐色味がかかる) + ロームブロック 5mm ~ 1cm大・少量だが均等) + 炭化ブロック 5mm大・微量)
- 8 黒色土 + ロームブロック 5mm ~ 1cm大・少量だが均等)
- 9 黒色土 + ロームブロック 1~3cm大・少量)
- 10 黒色土 (少量) + ロームブロック 5mm ~ 2cm大・均等) + しまりゆるい)
- 11 黒褐色土 + ローム粒 (1mm ~ 1cm大・均等)
- 12 黒褐色土 + ロームブロック 5mm ~ 2cm大・少量) + 炭化ブロック 5mm大・微量)
- 13 黒褐色土 (12より褐色味強い) + ロームブロック 5mm ~ 2cm大・少量だが均等) + しまりややゆるい)
- 14 褐色土 + ロームブロック 1~10cm大・多量) 注体 風倒木の根抱え土か

SP b - b

- 1 黒色土 + 焼土ブロック 5mm ~ 3cm大・少量だが均等)
- 2 黒褐色土 + 焼土粒 (1~4mm大・少量)
- 3 焼土ブロック (硬化している)
- 4 黒褐色土 + 焼土粒 (3mm ~ 1cm大・少量)
- 5 黒色土
- 6 焼土ブロック 1~5cm大・多量)
- 7 焼土ブロック 5mm ~ 2cm大・均等) + 黒褐色土 (少量)
- 8 黒褐色土 + 焼土粒 (2~7mm大・均等)
- 9 黒色土 + 焼土ブロック 5mm ~ 3cm大・均等) 硬化している)
- 10 黒褐色土 + 焼土粒 (3~5mm大・少量)
- 11 黒褐色土 + 焼土ブロック (3mm ~ 2cm大・均等)
- 12 黒色土 + 焼土ブロック (5mm ~ 3cm大・均等)
- 13 黒褐色土
- 14 黒色土 + 褐色灰色シルト質粘土ブロック 5mm ~ 2cm大・微量)
- 15 黒色土 + 褐色灰色シルト質粘土ブロック (1~4cm大・少量)

第15図 全体図・遺構図・出土遺物

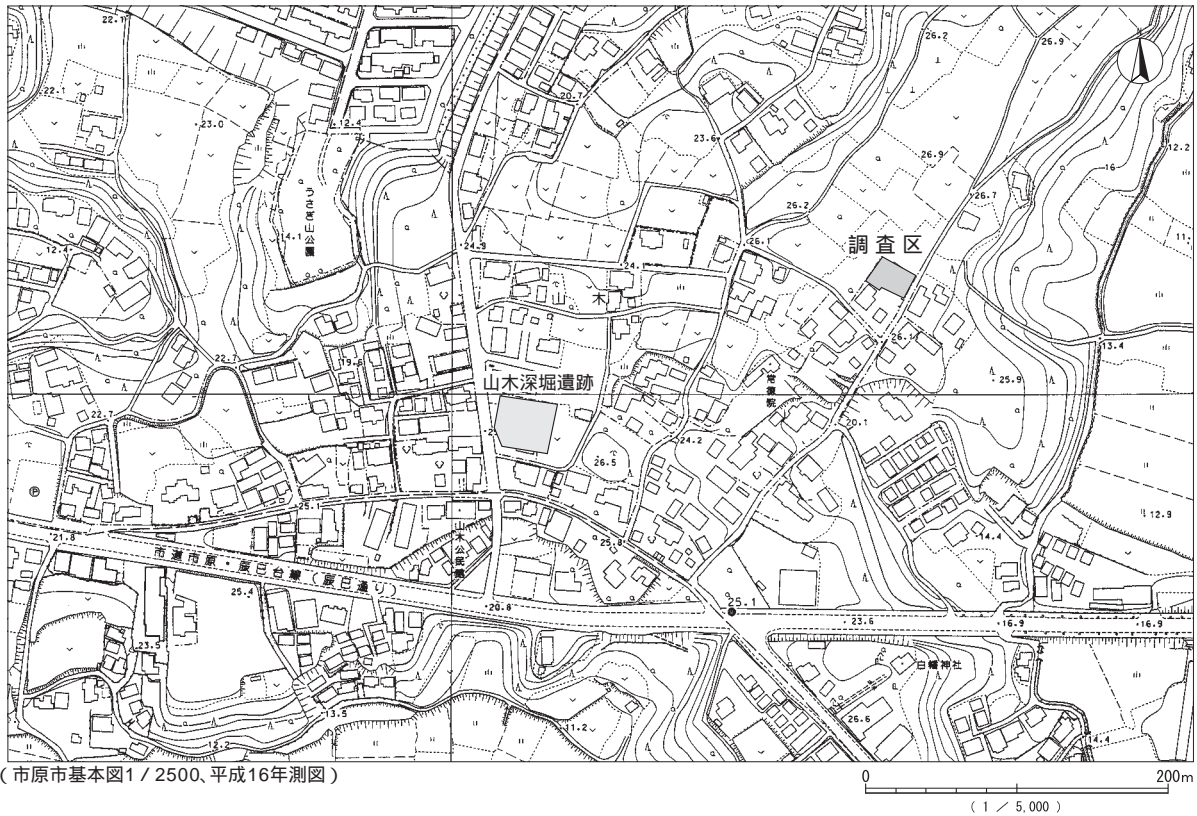
## 6 山木遺跡群（出戸地区）

**遺跡の位置** 山木遺跡群（出戸地区）は、市原市北部に存在し東京湾に面する海岸平野を西に望む標高26～27m前後の台地奥部に位置する。東方100mには、村田川水系によって開析された小支谷が入り、大厩遺跡などが存在する台地とは東西に分断されている。支谷との比高差は13～14m程である。周囲の遺跡としては、西方200mに山木深堀遺跡があり平安時代の竪穴住居跡や地下式横穴墓などが確認されている。一方、南西方70m程の位置に室町期14世紀頃の木造聖観音菩薩坐像が安置されている山木常徳院があり、常徳院を中心とした地域が山木城跡と周知されている。

**調査概要** 今回は、個人住宅の建設に先立って調査が行われ、施工上切り土せざるを得ず、保護層の確保が困難な部分については、トレンチを一部掘り上げて調査を行ったものである。

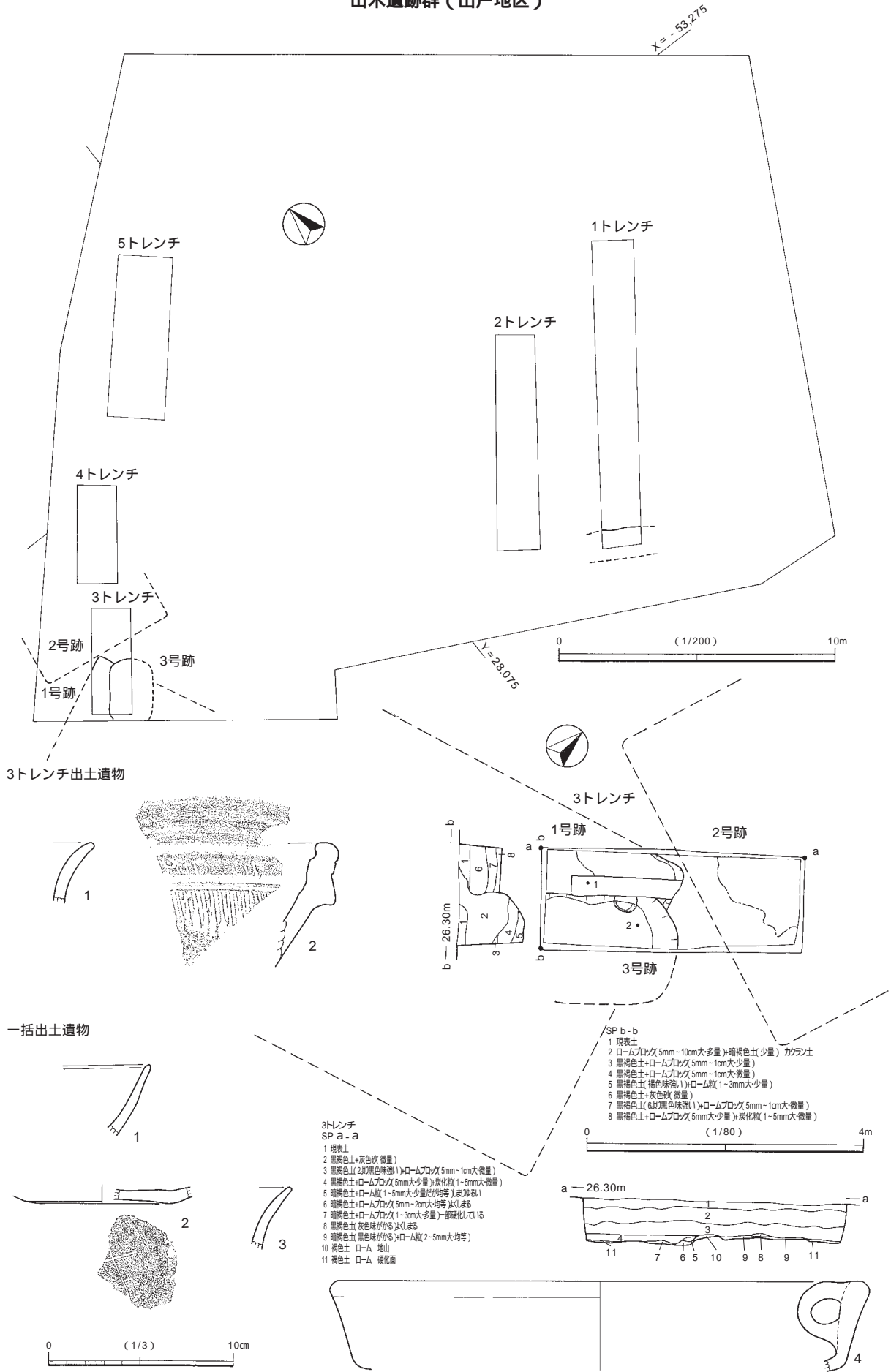
調査の結果、3トレンチから平安時代の竪穴住居跡2軒及び近世を中心とした地下式墳1基を確認した。竪穴住居跡は2軒とも遺存状況が悪く、1号跡は掘り込みが10cm程度、2号跡に至っては床面と考えられる硬化面が一部露出するのみである。遺物は、1号跡の覆土下層より土師器甕片1が出土している。また、南側において1号跡を切って地下式墳状の掘り込み3号跡が確認された。直に立ち上がり、底面はほぼ全面にわたってよく硬化していた。覆土は、上層は旧住宅に伴うと思われる穴によって攪乱されているが、中～下層においてはサラサラした黒褐色土を基本とする。調査時に北西隅部下層付近において微量の破碎貝ブロックが確認された。遺物は、下層より近世と考えられる常滑系播り鉢片2が出土している。

**出土遺物** その他の一括遺物としては土師器杯の口縁部1や、底部にヘラ記号「x」があるように見える底部片2及び甕口縁部3が出土するとともに、5トレンチからは焙烙鍋の内耳部4が出土している。



第16図 山木遺跡群（出戸地区）位置図

山木遺跡群（出戸地区）



第17図 全体図・遺構図・出土遺物





山田橋稲荷台遺跡M地点 調査前風景



山田橋稲荷台遺跡M地点 調査風景



山田橋稲荷台遺跡M地点 1トレンチ



山田橋稲荷台遺跡M地点 3トレンチ



郡本遺跡群（第7次） 調査前風景



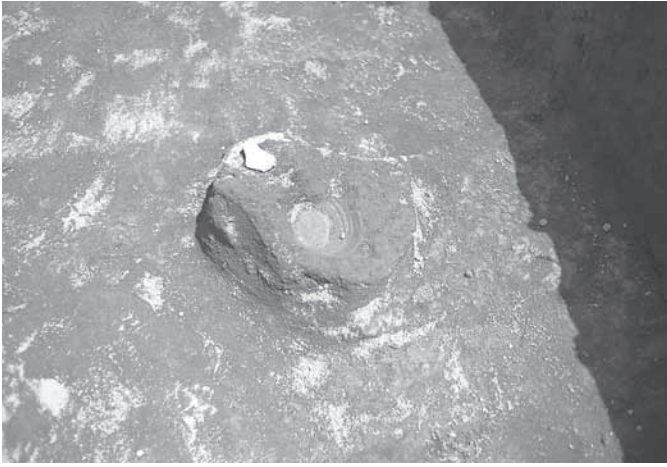
郡本遺跡群（第7次） 調査風景



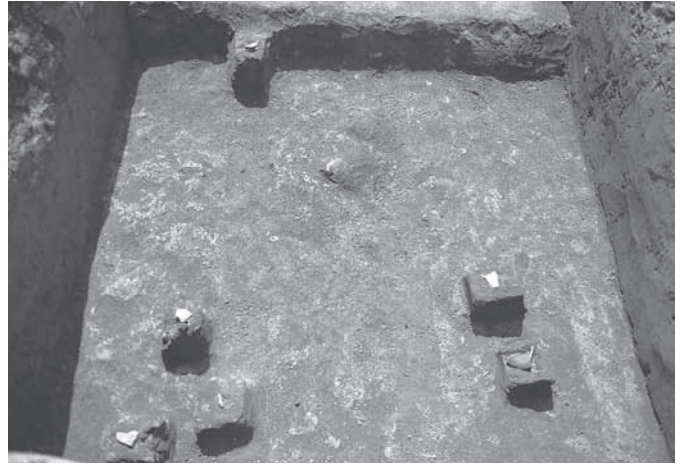
郡本遺跡群（第7次） 3トレンチ



郡本遺跡群（第7次） 4トレンチ



郡本遺跡群（第7次） 4トレンチ



郡本遺跡群（第7次） 5トレンチ



南岩崎仲山遺跡（第3次） 調査前風景



南岩崎仲山遺跡（第3次） 調査前風景



南岩崎仲山遺跡（第3次） 調査風景



南岩崎仲山遺跡（第3次） 1トレンチ



南岩崎仲山遺跡（第3次） 2トレンチ



南岩崎仲山遺跡（第3次） 3トレンチ



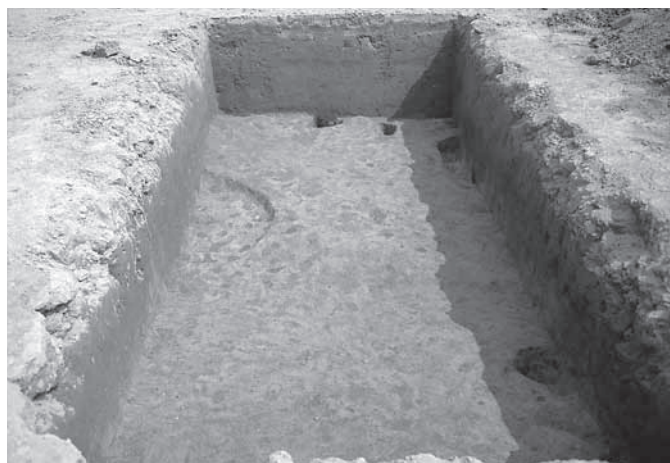
小鳥向遺跡（第4地点） 調査前風景



小鳥向遺跡（第4地点） 調査前風景



小鳥向遺跡（第4地点） 1トレンチ



小鳥向遺跡（第4地点） 5トレンチ



山木遺跡群（出戸地区） 調査前風景



山木遺跡群（出戸地区） 調査前風景

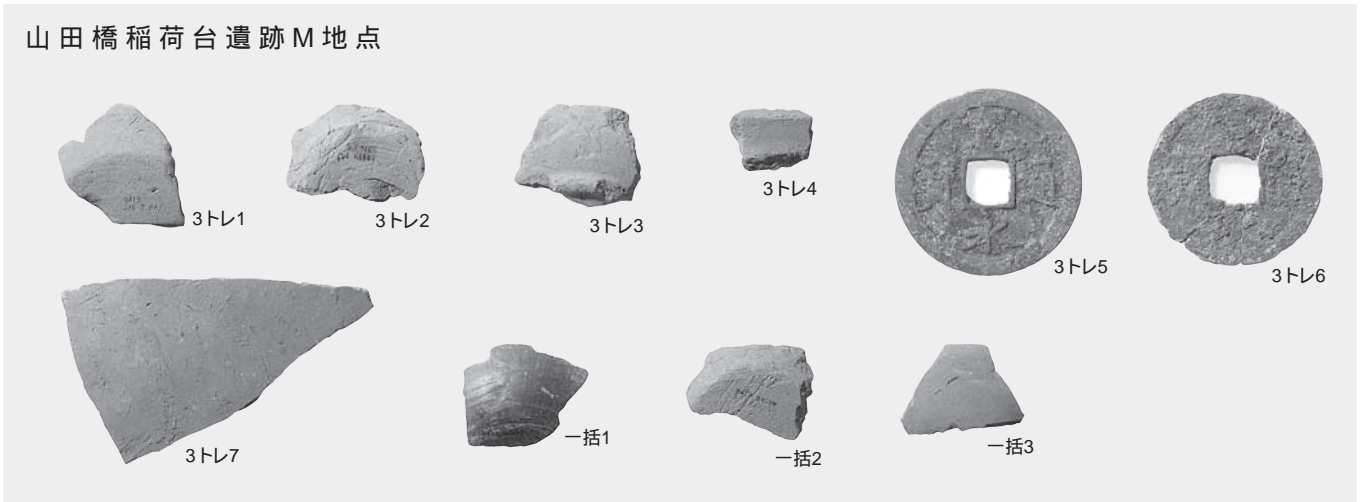


山木遺跡群（出戸地区） 調査風景

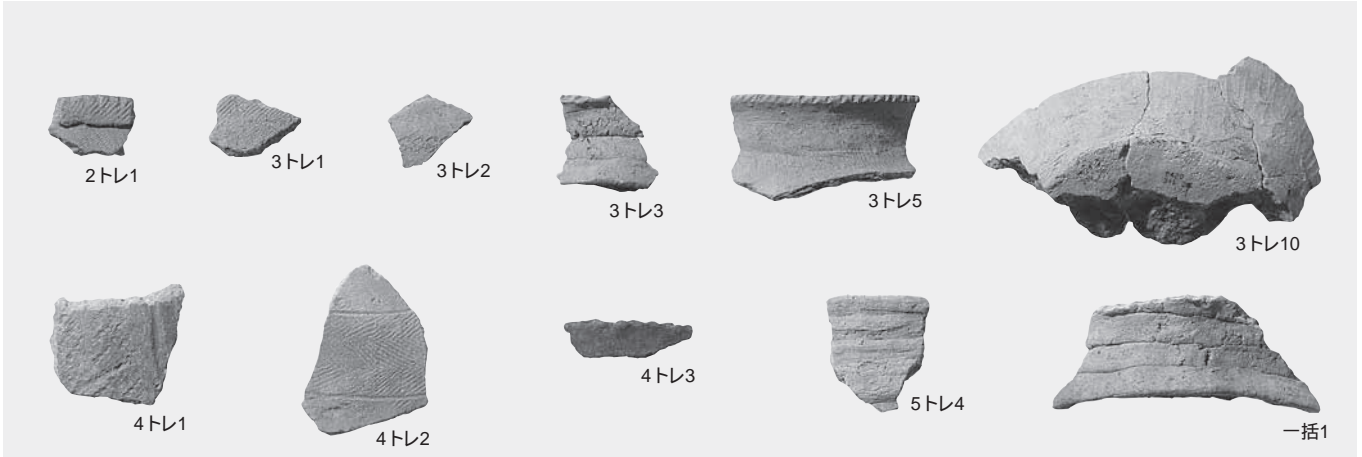


山木遺跡群（出戸地区） 3トレンチ

山田橋稻荷台遺跡M地点



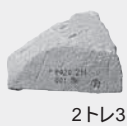
郡本遺跡群(第7次)



郡本遺跡群(第7次)



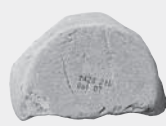
2トレ2



2トレ3



2トレ4



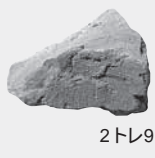
2トレ5



2トレ6



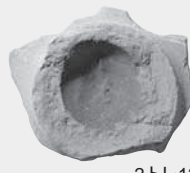
2トレ8



2トレ9



2トレ10



2トレ12



2トレ11



3トレ4



3トレ6



3トレ7



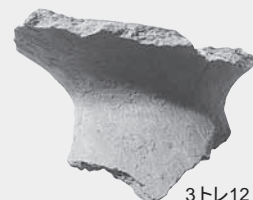
3トレ8



3トレ9



3トレ11



3トレ12



3トレ13



3トレ14



3トレ15



4トレ5



5トレ1



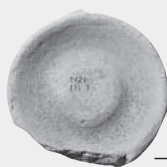
5トレ2



5トレ3



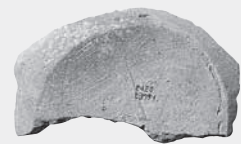
一括2



一括3

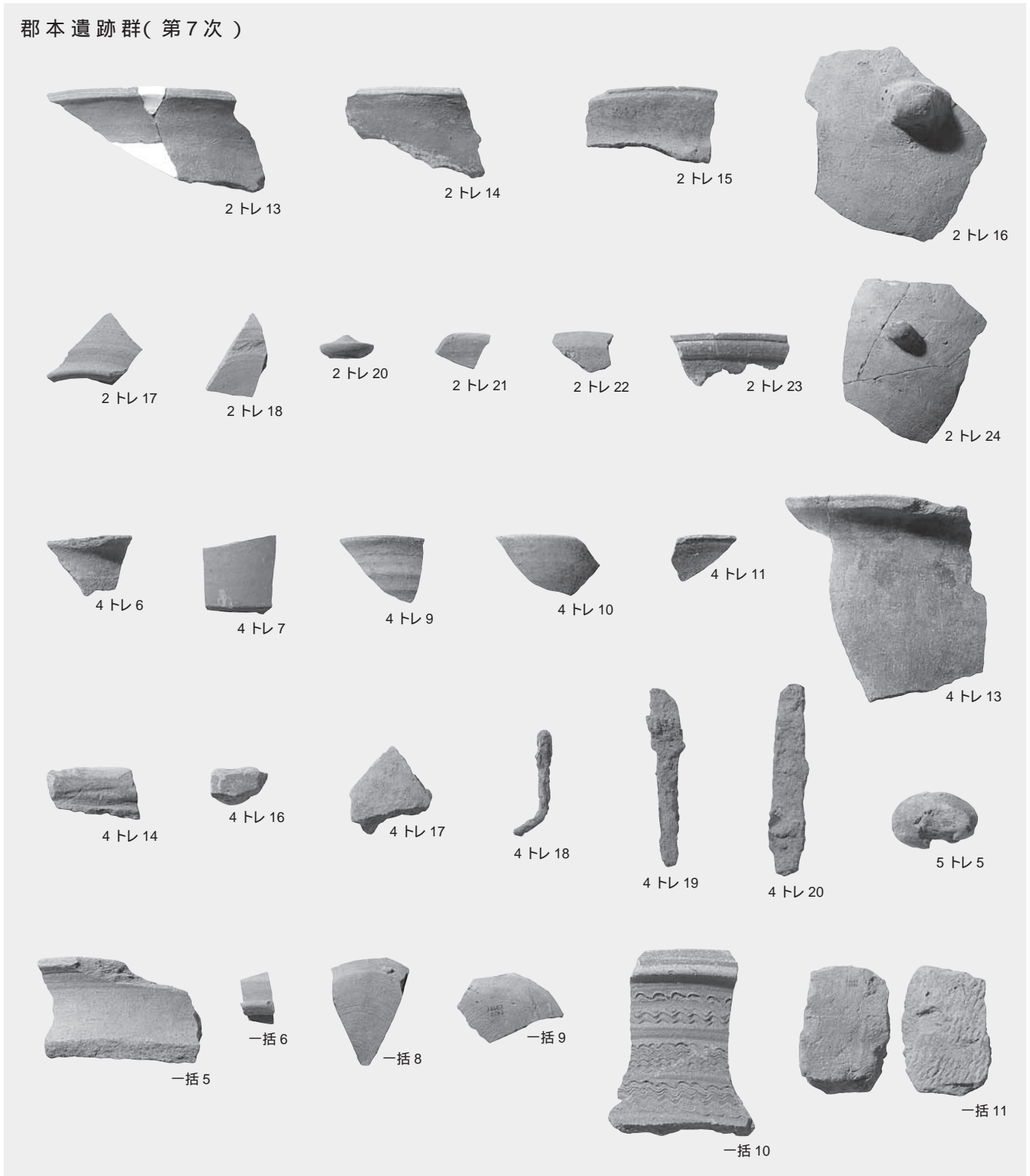


一括4



一括7

郡本遺跡群(第7次)



南岩崎仲山遺跡(第 次)



2トレ6



一括 1

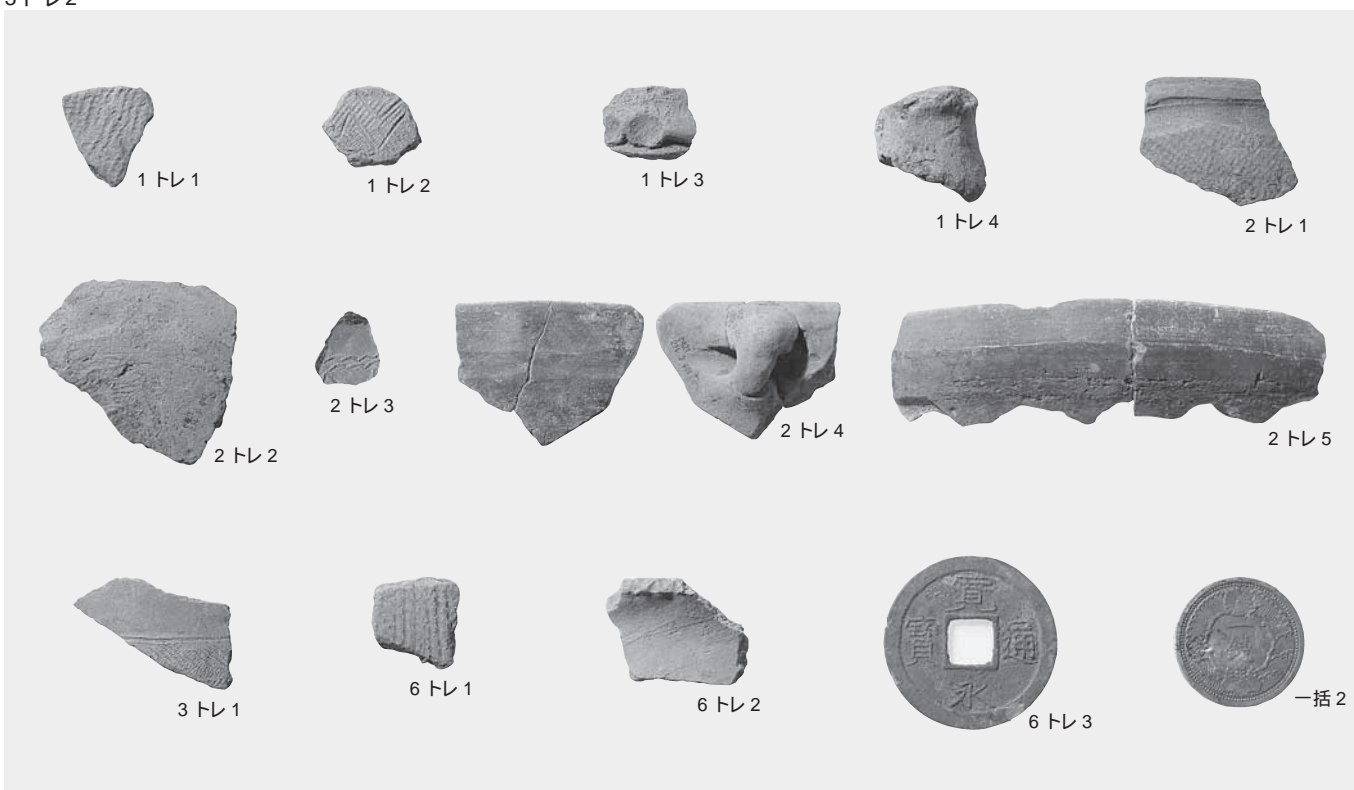
南岩崎仲山遺跡(第 次)



3トレ2



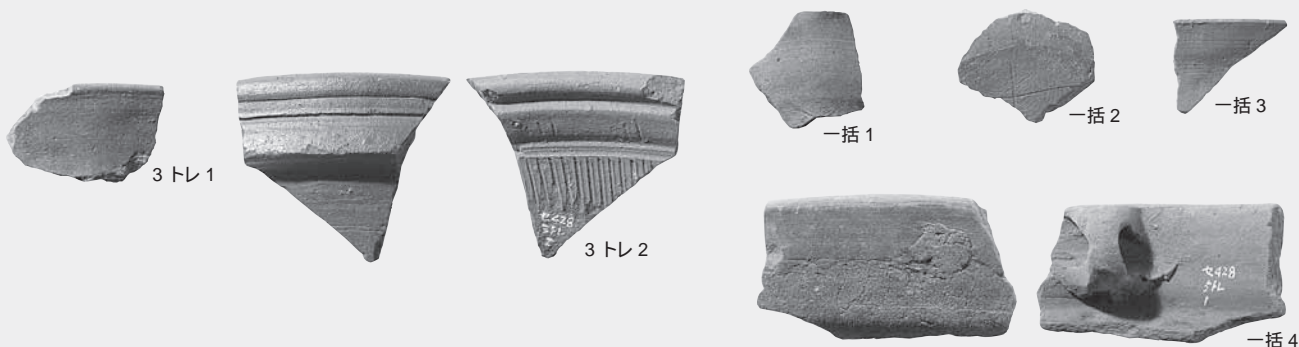
3トレ2



小鳥向遺跡(第 地点)



山木遺跡群(出戸地区)



# 報告書抄録

ふりがな	へいせい19ねんどいちはらしないいせきはくつちょうさほうこく
書名	平成19年度市原市内遺跡発掘調査報告
副書名	山田橋稻荷台遺跡M地点・郡本遺跡群(第7次)・南岩崎仲山遺跡(第3次)・小鳥向遺跡(第4地点)・山木遺跡群(出戸地区)
巻次	
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書
シリーズ番号	第7集
編著者名	小川浩一
編集機関	市原市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 TEL 0436(41)9000
発行年月日	2008年3月24日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やま だ ば し い な り だ い い せ き 山田橋稻荷台遺跡 M地点	いち は ら し ふ じ い 市原市藤井 1丁目185-1	12219	セ419	35° 30' 8"	140° 7' 39"	20070604 ~ 20070606	36m <sup>2</sup> /360.24m <sup>2</sup> (確認)	個人住宅建設
こ お り も と い せ き ぐ ん だ い 郡本遺跡群(第7 次)	いち は ら し こ お り も と 市原市郡本 4丁目106-1	12219	セ420	35° 30' 34"	140° 7' 28"	20070611 ~ 20070615	56m <sup>2</sup> /568.95m <sup>2</sup> (確認)	個人住宅建設
みなみいわざきなかやまいせき 南岩崎仲山遺跡 (第3次)	いち は ら し みなみいわざき 市原市南岩崎 682-1, 683	12219	セ421	35° 24' 38"	140° 6' 40"	20070625 ~ 20070710	147m <sup>2</sup> /1,479.2m <sup>2</sup> (確認)	その他建物 (本堂移転等)
こ じ り む か い い せ き だ い 小鳥向遺跡(第4 地点)	いち は ら し に い ぼ り あ ぎ こ じ り む か い 市原市新堀字小鳥向 973-1, 981-2	12219	セ424	35° 27' 52"	140° 8' 32"	20070820 ~ 20070827	42m <sup>2</sup> /420.68m <sup>2</sup> (確認)	個人住宅建設
や ま き い せ き ぐ ん で ど 山木遺跡群(出戸 地区)	いち は ら し や ま き あ ぎ で ど 市原市山木字出戸 431, 432	12219	セ428	35° 31' 9"	140° 8' 34"	20071112 ~ 20071116	51m <sup>2</sup> /514m <sup>2</sup> (確認)	個人住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山田橋稻荷台遺跡 M地点	包蔵地	中世	地下式塋1基	土師器、中近世陶器、近世 銭貨	
郡本遺跡群(第7 次)	包蔵地	弥生 古墳 平安	竪穴住居跡5軒	土師器、須恵器、灰釉陶器	弥生時代後期~平安時代の 竪穴住居跡を、確認した。
南岩崎仲山遺跡 (第3次)	包蔵地	弥生 古墳	竪穴住居跡1軒 古墳周溝1基	土師器、近世陶磁器、近世 銭貨	報恩寺3号墳の周溝の一部を、 確認した。
小鳥向遺跡(第4 地点)	包蔵地	平安	土坑1基	土師器、石鏃、鑄造関連遺 物	
山木遺跡群(出戸 地区)	包蔵地	平安	竪穴住居跡2軒	土師器、須恵器、近世陶磁 器	平安時代の竪穴住居跡 を、確認した。

## 要 約

今回は、主に個人住宅建設に伴う発掘調査を、市内に所在する5遺跡について行った。遺跡の所在地は、北部3遺跡・中部1遺跡・南部1遺跡となっている。山田橋稻荷台遺跡M地点は、古墳時代~奈良・平安時代の遺構の展開が想定されたが、中世まで遡る可能性のある地下式塋状の土坑が確認された。郡本遺跡群(第7次)は、調査範囲ほぼ全体に遺構が展開しており、弥生時代後期~平安時代にかけての竪穴住居跡が確認された。南岩崎仲山遺跡(第3次)は、養老川中流域支流の戸田川を望む台地上に位置し、報恩寺古墳群の中核をなす報恩寺3号墳の前方部に接する。周溝が確認され、深さ1m、幅は推定8~9mと考えられる。出土遺物は僅少であった。小鳥向遺跡(第4地点)は、西方100mに鑄造関連遺物を大量に出土した遺跡が存在しており、関連遺物・遺構の存在が予想されたが、確認されなかった。山木遺跡群(出戸地区)は、平安時代の竪穴住居跡を確認した。

## 平成19年度 市原市内遺跡発掘調査報告

平成20年3月24日発行

編 集 市原市埋蔵文化財調査センター  
市原市能満1489

発 行 千葉県市原市教育委員会  
市原市国分寺台中央1-1-1

印 刷 株式会社 正 文 社  
千葉市中央区都町1丁目10番6号